



中学校・高等学校軽音楽部

顧問通信

2021年4月号 VOL.34

※本誌に記載されている記事の内容や数字などの全部、または一部を無断で複製、引用することを禁じます。利用する際は当協会までご一報ください。



DiGiRECO.JR 2021年4月号

新年度スタート。新入部員獲得と魅力的な部活動にする方法

部活動運営の8つの提案

軽音楽部 2.0

～軽音楽部がさらに市民権を得るために～

人のプレイ見て我がプレイ直せ

YouTubeの演奏映像を見るポイント

CONTRIBUTE

9つの疑問に答える

中島信幸 埼玉県立大宮南高等学校 教諭

VOICE

早田和正 大阪府立金剛高等学校 軽音楽部 顧問

守田佑一 鹿児島県立鹿屋高等学校 軽音楽部 顧問

REPORT

第5回 静岡県高等学校軽音楽新人大会
第41回 大阪府高等学校芸術文化祭（軽音楽部門）
第98回 愛知県立豊田西高等学校 ギター部

編集長インタビュー

SUGIZO/LUNA SEA 軽音楽部員に語る60分



特定非営利活動法人 (NPO法人)

全国学校軽音楽部協会 監修
発行

全国学校軽音楽部協会は 「部活動は教育の一環である」の理念のもと 高等学校軽音楽部の活動を応援しています。

現在、全国で軽音楽系の部活動が活発に行われ、多くの生徒が軽音楽を通して様々なことを学んでいます。それは、軽音楽部の「自主性」や「責任感」の伴う活動が学習意欲の向上につながり、「コミュニケーション」「チームワーク」「クリエイティビティー」といった社会で必要とされるスキルを育てることができる部活動だと認知されてきたからだと思います。しかし、その一方で、他の部活動に比べるとまだその運営方法や指導方法などが確立しておらず、学校単位、各都道府県の高等学校文化連盟軽音楽専門部や軽音楽連盟単位での活動にとどまっているのが現状です。また、大会における審査基準やレギュレーション、校外活動の範囲、部活動とバンド活動との違いなどに統一された定義がないことが軽音楽部の発展の妨げになっていると思います。

今後、軽音楽部の社会的な認知と発展が進み、生徒が部活動として正しく活動できる状態にするには、文化庁をはじめ、各都道府県の高文連専門部や連盟、顧問の先生方と協力しながら、全国規模の交流ができる場を作ることや軽音楽部員への直接的な支援、及び指導が必要だと思います。

私たちは、このような支援活動を推進するには、公平性と中立性を保ちながら、情報公開を通じて広く一般の方の賛同を得ることができる特定非営利活動法人としての活動が望ましいと考え、本協会を設立しました。これまでも、情報誌の発行、大会や合同演奏会の運営支援、大会プログラムの発行、生徒や顧問への各種クリニックや講習会の開催、軽音楽連盟発足の支援などを行ってきました。今後も不特定、かつ多数の公益に寄与しながら、軽音楽を通して青少年の健全な育成を目指していきます。

特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会
理事長 三谷佳之





中学校・高等学校軽音楽部

顧問通信

■中学校・高等学校軽音楽部 顧問通信 VOL.34
 ■APR・2021（第6巻2号通巻34号）
 ■発行日：令和3年4月6日（火）
 ■監修・発行：特定非営利活動法人（NPO法人）
 全国学校軽音楽部協会
 〒224-0003 横浜市中区中川中央1-37-6-405
 TEL：045-913-0901 FAX：045-913-1900
 E-Mail：info@keionkyo.org
 ■企画・編集：株式会社ミュージックネットワーク

※本誌に記載されている記事の内容や数字などの全部、または一部を無断で複製、引用することを禁じます。利用の際は当協会までご一報ください。

編集長の言葉 ...4

全国学校軽音楽部協会とは... ...5

配布校リスト ...7

全国高等学校軽音楽連盟 連絡先一覧 ...11

新年度スタート。新入部員獲得と魅力的な部活動にする方法

部活動運営の8つの提案 ...12

軽音楽部 2.0 ...14

～軽音楽部がさらに市民権を得るために～

人のプレイ見て我がプレイ直せ

YouTubeの演奏映像を見るポイント ...17

「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」
と軽音楽部の接点 ...35

軽音楽部の大会における統一審査基準（案）...37



REPORT

第5回 静岡県高等学校軽音楽新人大会 ... 19

第41回 大阪府高等学校芸術文化祭（軽音楽部門）
～ウィンターフェスティバル 2020～ ...20

DiGiRECO BAND CLINIC

第98回 愛知県立豊田西高等学校 ギター部 ...21

VOICE

これからの軽音楽部はクリエイティブなことも
懐深く取り込んでいくべき ...22

【大阪府】大阪府立金剛高等学校 軽音楽部 顧問 早田和正

活発な活動が続いていくような
組織作りをしていきたい ...24

【鹿児島県】鹿児島県高等学校文化連盟軽音楽専門部 委員長
鹿児島県立鹿屋高等学校 軽音楽部 顧問 守田佑一

CONTRIBUTE

9つの疑問に答える ...26

【埼玉県】埼玉県立大宮南高等学校 教諭 中島信幸

編集長インタビュー

SUGIZO/LUNA SEA

軽音楽部員に語る60分 ...31



コロナ禍をチャンスに

新型コロナウイルスの出現により 2020 年度は世界中の人々が未曾有の経験をしました。待望のワクチンが開発されましたが、病気としては今も現在進行形です。2023 年頃まで続くと言う説やインフルエンザのように定着するという話も耳にします。もうコロナ以前の元の日常に戻れるとは思えず、新年度の部活動に関しては、今の状況を取り入れた形式で、ニュー・ノーマルとして、新しい軽音楽部の在り方を模索することが大切ではないかと思います。思いつきですが、例えば、換気をこまめにすると音の出る部活動ですから校内や近隣への騒音問題が出てくると思います。それならば、生ドラムではなく、電子ドラムを導入するか、ギター・アンプの代わりにマルチ・エフェクターのヘッドホン・アウトで練習するか…。協会が推奨している「軽音楽部のオール電化」などもニュー・ノーマルに適していると自負します。また、歌唱の度にマイクを消毒することを考えると、ギタリストやベーシストのようにボーカルも自分用のマイクロフォンを持つことが常識になるかもしれません。

一方で、政府の働き方改革を受けて、部活動の在り方も文化庁で検討されています。先日も、「部活動の地域移行」が提唱され、近く実験校も決まるようです。外部指導者どころではなく、学校の外に部活を置こうというアイデアです。その計画がうまく行くかどうかはわかりませんが、働き方改革の

核は部活動を担当したくない教員に強要することの回避だと思いますので、部活動の指導や運営を顧問の先生以外が担当する時代を見据えて、協会では「外部指導員のガイドライン」を作成し、先日、文化庁に提案／提出して来ました。文化庁によると、県に申請をすれば軽音楽部の外部指導員の予算＝人件費は出るそうですので、軽音楽部の指導でお困りの高校があれば協会になんなりと相談してください。

さて、各県の顧問の組織化としては、愛知県が高文連に軽音楽専門部の設立を視野に入れて立ち上がりました。5 月の理事会で育成団体になるようです。他にも鹿児島県の高文連には軽音楽専門部が設立されました。詳しい経緯に関しては、委員長にインタビューしましたので本文をご覧ください。鹿児島総文の次の岐阜総文 2024 でも県の専門部設立の敷居が下がっていますので、言葉は乱暴ですが、総文祭特需を狙って専門部の設立を進めるのも手だだと思います。そのためには高文連の理事会で承認を受けられる組織を作ることが大切だと思います。そういうことを含めて、新年度の「顧問通信」では全国の軽音楽部の顧問の先生方の情報共有のハブになれるよう、横の連携ができるように努めたいと考えています。コロナの影響で各校のリモート環境が揃いましたので、コミュニケーションは格段によりくなりましたからね。頑張ります！

特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会
理事長 三谷佳之
mitani@keionkyo.org
Twitter @yoshiyukimitani



三谷佳之 YOSHIYUKI MITANI
BLOOD SABBATH (www.bloodsabbath.com)

小学生で電気に興味を持つ。中学生でブリティッシュ・ロックに目覚め、将来はイギリスに住む！と妄想。英語は必須と直感。エレキ・ギターを弾きつつ、シンセサイザーに興味を持ち、楽器より電気に傾倒。国立奈良工業高等専門学校電気工学科に進学。ロックバンドを組むが長続きせず。在学中、興味の対象は広告宣伝や販売促進、マーケティングに移る。某電子楽器メーカーに就職後、最新テクノロジーだった通信事業に興味を持ち、9 年間の勤務を経て、独立。ミュージックネットワークを設立。インターネットのない時代から音楽と通信ネットワークの分野で数々の日本初のビジネスを立ち上げる。2000 年の少し前、インターネット業界では当たり前の「コンテンツは無料」というコンセプトを雑誌に応用した「無料雑誌」を思いつき、創刊。2013 年、高校の軽音楽部向けの無料雑誌「DiGiRECO.JR」を創刊。2018 年、大学の軽音楽サークル向けの無料雑誌「DiGiRECO.SR」を創刊。同年、特定非営利活動法人「全国学校軽音楽部協会」を設立。

音楽面では約 10 年前にバンドへの興味が再燃。ハードロック系イベントを主催する。その後、主催するよりも出演の方が楽しそう…ということで方向転換。高専生時代から好きだったヘヴィメタルの元祖「BLACK SABBATH」のトリビュート・バンド「BLOOD SABBATH」を結成。年間 12 回以上のライブを展開。編集長の立場を利用して BLACK SABBATH のメンバーに会うなど…やりたい放題の公私混同。2013 年 5 月、直訳ロッカーの王様と日本語で BLACK SABBATH の名曲を演奏したアルバム「黒い安息日伝説」を発売。好調な売れ行きに気を良くして、現在、第 2 弾を計画中。2015 年 5 月、BLACK SABBATH のギタリストであるトニー・アイオミのトリビュート・アルバムに参加。世界デビューを果たす。

※ 会社のホームページで設立以来の活動を紹介しています

全国の中高大学の軽音楽部 を支援しています

全国学校軽音楽部協会とは…

現在、全国で軽音楽系の部活動が活発に行われ、多くの生徒が軽音楽を通して様々なことを学んでいます。それは、軽音楽部の「自主性」や「責任感」の伴う活動が学習意欲の向上につながり、「コミュニケーション」「チームワーク」「クリエイティビティー」といった社会で必要とされるスキルを育てることができる部活動だと認知されてきたからだと思います。しかし、その一方で、他の部活動に比べるとまだその運営方法や指導方法などが確立しておらず、学校単位、各都道府県の高等学校文化連盟軽音楽専門部や軽音楽連盟単位での活動にとどまっているのが現状です。また、大会における審査基準やレギュレーション、校外活動の範囲、部活動とバンド活動との違いなどに統一された定義がないことが軽音楽部の発展の妨げになっていると思います。

今後、軽音楽部の社会的な認知と発展が進み、生徒が部活動として正しく活動できる状態にするには、文化庁をはじめ、各都道府県の高文連専門部や連盟、顧問の先生方と協力しながら、全国規模の交流ができる場を作ることや軽音楽部員への直接的な支援、及び指導が必要だと思います。

私たちは、このような支援活動を推進するには、公平性と中立性を保ちながら、情報公開を通じて広く一般の方の賛同を得ることができる特定非営利活動法人としての活動が望ましいと考え、本協会を設立しました。これまでに、情報誌の発行、大会や合同演奏会の運営支援、大会プログラムの発行、生徒や顧問への各種クリニックや講習会の開催、軽音楽連盟発足の支援などを行ってきました。今後も不特定、かつ多数の公益に寄与しながら、軽音楽を通して青少年の健全な育成を目指していきます。

特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会
理事長 三谷佳之

ご寄付のお願い

軽音楽部は部活動の1つであり、部活動は学校教育の一環です。学校教育であればこそ、公平性、中立性、継続性が大切です。それらを踏まえ、部活動を支援する団体としては特定非営利活動法人（NPO 法人）の形態が望ましいと考えました。

軽音楽部の強みはバンドや音楽を通して、社会が求める人材を育成できることです。全国の軽音楽部がより良い活動ができるように応援したい…。当協会の理念や活動内容にご賛同いただける方々のご寄付をお待ちしております。

公平性

全国的に公平であることが求められます。都心の学校でも地方の学校でも機会が均等に提供されることが大切です。営利目的の費用対効果では測れません。

中立性

中立性が保障されることが求められます。生徒にとって本当に有益なサポートを提供することが大切です。特定の企業に偏らず、中立な立場が求められます。

継続性

継続性を担保することが求められます。企業の業績の変動等の理由で支援が中断されるようなことなく、継続的にサポートを続けることが重要です。

全国学校軽音楽部協会へのご寄付をお願いします

音楽・楽器ファンの方や軽音楽部の顧問の先生、父兄、OBやOGの皆様、軽音楽部を応援していただけるあらゆる方からのご寄付をお待ちしております。1,000円から受け付けています。

寄付に関するお申し込みはホームページをご覧ください。
<https://keionkyo.org/sanjo/>

軽音協の活動は皆様の寄付金で成り立っています

当協会の理念や活動内容にご賛同いただける方々のご支援をお待ちしております

軽音楽部は バランスの取れた 部活動です

軽音楽部は高校生の間で人気の高い部活動です。軽音楽部というと「音楽が好き」や「楽器演奏が楽しい」といった点が注目されますが、それだけではありません。バンドに大切なのは**コミュニケーション**と**チームワーク**と**クリエイティビティー**です。軽音楽部は社会に出てから必要とされるこれらの能力を音楽やバンド活動を通して学ぶことができる部活動です。

コミュニケーション力を育む



バンド活動はメンバー同士で相談しないと何も進みません。軽音楽部の活動を通して、自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞くことで「コミュニケーション力」や「協調性」を育むことができます。

チームワークを学ぶ



お互いの意見をぶつけ合い、お互いのことを知ることで団結力と仲間意識が生まれます。軽音楽部は文化部でありながら、運動部のような「チームワーク」と「責任感」を学ぶことができます。

クリエイティビティーを磨く



オリジナル曲を作るのはもちろんのこと、既存曲をコピーする際にも自分たちならではの工夫やアイデアを凝らして楽曲を組み立てていくことで、「クリエイティビティー」を磨くことができます。

協会の主な活動と寄付金の使途

出版物の発行

- ・生徒向け「デジレコ・ジュニア」の発行（年間7回）
- ・顧問向け「顧問通信」の発行（年間7回）
- ・大会プログラムの発行（年間16冊）

ガイドラインの提案

- ・大会審査基準／大会審査員
- ・外部指導員（コーチ）
- ・標準的な機材の提案

技術指導

- ・パートごとの実技指導・アンサンブル指導
- ・音楽理論や作詞／作曲講座
- ・音作り、楽器＆電気の知識、音響の指導

合同演奏会・発表会の企画

- ・複数校の合同演奏会のコーディネート
- ・公共施設、地域行事などでの演奏会の企画
- ・音楽合宿のできるホテルの紹介

講評・審査員・外部コーチ

- ・合同演奏会のコメンテーター
- ・大会などのコンテストの審査員
- ・外部指導員（コーチ）の紹介 * 予定

他校・他県の情報

- ・顧問研修会&交流会
- ・新任顧問のための初級技術講習会
- ・県を跨ぐ顧問交流のコーディネート

機材選び

- ・予算に応じた楽器や機材選びのアドバイス
- ・騒音問題を解決する「オール電化」の提案
- ・サイレント・スタジオのデモンストレーション

販売／リース

- ・予算に応じた楽器や機材選びのアドバイス
- ・少ない初期投資で機材を揃えられるリース
- ・楽器や機材の販売、説明、メンテナンス



この欄に記載されていない高等学校で本誌を希望される場合は、お手数ですが、当協会までご一報ください。また、誌面に対するご意見・ご要望などがありましたら下記までお寄せください。本誌は広告収入で成り立っており、配布に関する費用は一切、かかりません。

4857	渋谷区	東海大学付属星高等学校 軽音楽部
4858	渋谷区	東京大学附属高等学校 軽音楽部
4930	渋谷区	東京国立広尾高等学校 軽音楽部
4847	渋谷区	東京国立玉川高等学校 軽音楽部
3985	渋谷区	東京国立第一商業高等学校 軽音楽部
4853	渋谷区	富士丘高等学校 フォーキング部
4862	渋谷区	陽明高等学校 キター部
4062	新宿区	新井田高等学校 軽音楽部
4038	中野区	大井町高等学校 ビューミュージック部
5000	中野区	東洋大学中野高等学校 ライトミュージック部
3995	中野区	東京国立鷺宮高等学校 軽音楽部
4995	中野区	東京国立中野工業高等学校 軽音楽部
4994	中野区	東京国立富士高等学校 軽音楽部
4944	中野区	東京国立武蔵丘高等学校 軽音楽部
4994	中野区	東京国立三軒五軒高等学校 軽音楽部
4997	中野区	宝島高等学校 軽音楽部
4999	中野区	堀越高等学校 軽音楽部
4046	杉並区	女子美術大学付属高等学校 キター部
4893	杉並区	杉並学院中等高等学校 フォーキング部
4895	杉並区	修徳学園鳳鳴高等学校 軽音楽部
3980	杉並区	中大大学付属高等学校 音楽部
4047	杉並区	東京国立荻原高等学校 軽音楽部
4889	杉並区	東京国立荻原高等学校 軽音楽部
4891	杉並区	東京国立北荻原高等学校 軽音楽部
4886	杉並区	東京国立西高高等学校 軽音楽同好会
4888	杉並区	東京国立豊多摩高等学校 軽音楽部
4056	杉並区	東京正高等学校 軽音楽部
4064	杉並区	日本大学第二高等学校 フォーキング部
4874	杉並区	女子大学付属高等学校 軽音楽部
4899	豊島区	豊島高等学校 音楽部
5098	豊島区	学習院高等学校 フォーキング同好会
5104	豊島区	千代田高等学校 軽音楽同好会
5106	豊島区	浜渡高等学校 音楽研究部
5096	豊島区	杉並区立附城高等学校 高等学校 キター部
4023	豊島区	東京国立千代田高等学校 軽音楽部
5097	豊島区	豊島高等学校附属中学校 高等学校 軽音楽部
5099	豊島区	豊島高等学校 軽音楽部
4071	豊島区	豊島高等学校 軽音楽部
4072	豊島区	豊島高等学校 軽音楽部
5109	北区	安部学院高等学校 軽音楽クラブ
5117	北区	板橋区立高校 軽音楽部
5118	北区	板橋区立南高等学校 軽音楽部
5115	北区	女子学院高等学校 軽音楽部
4894	北区	板橋区立板橋高等学校 軽音楽部
4781	北区	荻窪1女子高等学校 軽音楽部
5111	北区	東京都立大高等学校 軽音楽部
4002	北区	東京国立王立総合高等学校 軽音楽部
5107	北区	東京国立明仁高等学校 軽音楽部
3999	北区	東京国立飛鳥高等学校 軽音楽部
5114	北区	武蔵野高等学校 軽音楽部
4834	荒川区	荒川区立高等学校 軽音楽部
4835	荒川区	東京国立江戸川高等学校 軽音楽部
9509	荒川区	東京国立産業技術高等専門学校 民謡研究部
4834	荒川区	東京国立竹の高等学校 軽音楽部
4044	板橋区	城北高等学校 軽音楽部
4049	板橋区	大東文化大学高等学校 軽音楽部
4054	板橋区	東京都立大附属高等学校 軽音楽部
4057	板橋区	東京都立板橋高等学校 軽音楽部
4006	板橋区	東京国立立川高等学校 軽音楽部
5044	板橋区	東京都立板橋高等学校 軽音楽部
5046	板橋区	東京都立板橋有徳高等学校 フォーキング部
5043	板橋区	東京都立北板橋高等学校 フリーミュージック部
5045	板橋区	東京都立北板橋工業高等学校 軽音楽部
5052	板橋区	日本大学池上高等学校 軽音楽部

5143	東京都	福知山工業専門学校	専修科
5143	東京都	東京女子大学	音楽部
5147	東京都	東京国立光化学高等学校	軽音楽部
5107	東京都	東京国立光化学高等学校	軽音楽部
4004	東京都	東京国立大森高等学校	軽音楽部
5148	東京都	東京国立大森高等学校	フォースティックギター
5149	東京都	東京国立大森高等学校	軽音楽部
4025	東京都	東京国立大森高等学校	軽音楽部
5145	東京都	東京国立大森高等学校	軽音楽部
5151	東京都	武蔵女子学校	音楽部内音楽班
4971	足立区	西郷文子高等学校	軽音楽部
4969	足立区	足立女子高等学校	音楽部
4962	足立区	足立女子高等学校	音楽科
4967	足立区	東京国立大森高等学校	ロック部
399	足立区	東京国立大森高等学校	軽音楽部
4967	足立区	東京国立大森高等学校	軽音楽部
4964	足立区	東京国立大森高等学校	足立音楽科
4000	足立区	東京国立大森高等学校	軽音楽部

4001	足立区	東京国立足立西高等学校 経営学部
4965	足立区	東京国立足立東高等学校 経営学部
4963	足立区	東京国立荒川高等学校 経営学部
4797	葛飾区	東京国立葛飾南高等学校 経営学部
4011	葛飾区	東京国立葛飾総合高等学校 経営学部
4794	葛飾区	東京国立葛飾南高等学校 経営学部
4796	葛飾区	東京国立南葛飾高等学校 経営学部
4795	葛飾区	東京国立南葛飾高等学校 経営学部
4809	江戸川区	関東第一高等学校 経営学部
4009	江戸川区	東京国立葛飾工業高等学校 経営学部
4010	江戸川区	東京国立葛飾南高等学校 経営学部
4804	江戸川区	東京国立江戸川高等学校 ユニーク学部
4803	江戸川区	東京国立紅雲山高等学校 ニュートン学部
4806	江戸川区	東京国立浅間高等学校 経営学部
4807	江戸川区	東京国立浅間高等学校 経営学部
4805	江戸川区	東京国立浅間高等学校 経営学部

4790	あるさ町	東京都立江川高等学校 軽音楽部
4791	あるさ町	東京都立菅生高等学校 軽音楽部
4792	あるさ町	東京都立女子中学校 軽音楽部
4793	福岡市	福岡女子高等学校 高等学校 軽音楽部
4794	福岡市	東京都立五葉総合高等学校 軽音楽同好会
4795	福岡市	東京都立羽村高等学校 軽音楽部
4796	分岡市	早稲田大学実業部早稲田高等学校 軽音楽同好会
4797	国立市	相模高等学校 ルーツミュージック/ソサエティ
4798	国立市	東京都立国立高等学校 民族音楽研究会
4799	国立市	東京都立五商業高等学校 軽音楽部
4800	国立市	日本放送放送高等学校 軽音楽部
4801	狛江市	東京都立狛江高等学校 軽音楽部

8 中学校・高等学校軽音楽部 顧問通信 VOL.34 | APR・2021

5453	土浦市	つくば国際大学高等学校 軽音楽部	7190	甲府市	山梨県立甲府南高等学校 軽音楽部	7606	刈谷市	愛知県立刈谷北高等学校 ギター同好会	5694	京都市	京都女子高等学校 軽音楽部
5446	土浦市	茨城県土浦第一高等学校 軽音楽同好会	7209	上野市	日本大学明誠高等学校 音楽部	7607	春日市	愛知県立春日丘高等学校 フォーク部	5671	京都市	京都精華大学高等学校 軽音楽部
5447	土浦市	茨城県土浦第三高等学校 音楽部	7205	大月市	山梨県立郡留高等学校 フォークソング部	7642	香川市	中部大春日丘高等学校 軽音楽部	5707	京都市	京都聖母学院中学校、高等学校 軽音楽部
5452	土浦市	常陸学院高等学校 軽音楽部	7202	飯沼市	山梨県立飯沼高等学校 フォークソング部	7772	小山市	富高高等学校 軽音楽部	5777	京都市	京都府立鴨川高等学校 軽音楽部
5454	土浦市	土浦大学高等学校 軽音楽部	7179	八戸市	山梨県立八戸高等学校 軽音楽部	7772	八戸市	山梨県立八戸高等学校 軽音楽部	5681	京都市	京都府立八幡高等学校 フォークソング部
5451	土浦市	土浦日本大学中等教育学校 バンド部	7213	八戸市	山梨県立八戸高等学校 軽音楽部	7659	瀬戸市	愛知県立瀬戸高等学校 アコースティックギター部	5680	京都市	京都府立嵯峨野高等学校 軽音楽部
5456	東茨城郡	茨城県東大洗高等学校 軽音楽同好会	7199	南巨摩郡	身延山高等学校 軽音楽同好会	7661	瀬戸市	愛知県立瀬戸商業高等学校 PSLMC	5710	京都市	京都府立山崎高等学校 軽音楽部
5459	那珂市	茨城県水戸農業高等学校 軽音楽部	7211	三岐市	山梨県立三岐高等学校 ギター部	7665	瀬戸市	愛知バビロニア女子高等学校 軽音楽部	5685	京都市	京都府立朱雀高等学校 軽音楽部
5466	日立市	茨城県キリスト教学園高等学校 フォークソング部	7176	富士吉田市	山梨県立ひばり丘高等学校 軽音楽部	7666	瀬戸市	聖霊中学校、高等学校 軽音楽部	5926	京都市	京都府立清見高等学校 軽音楽部
5464	日立市	茨城県日立第一商業高等学校 軽音楽部劇同好会	7217	北杜市	山梨県立北杜高等学校 軽音楽部	7668	瀬戸市	愛知県立西尾高等学校 ギター部	5702	京都市	京都府立東横田高等学校 フォークソング部
5463	日立市	茨城県日立第二高等学校 ギター部	7218	北杜市	山梨県立北杜高等学校 軽音楽部	7693	多摩市	愛知県立東浦高等学校 ギター部	5704	京都市	京都府立北山高等学校 軽音楽部
5468	日立市	明秀学園日立高等学校 フォークソング同好会	7218	北杜市	山梨県立北杜高等学校 軽音楽部	7710	多摩市	愛知県立北山高等学校 軽音楽部	5703	京都市	京都府立洛西高等学校 軽音楽部
5470	鉾田市	茨城県立鉾田第二高等学校 音楽部	7297	安曇野市	長野県南安曇農業高等学校 軽音楽部	7589	東海市	愛知県立横須賀高等学校 軽音楽同好会	5675	京都市	京都府立洛南高等学校 フォークソング研究部
5474	鹿ヶ嶋市	愛媛県学園大学附属鹿ヶ嶋高等学校 軽音楽部	7306	安曇野市	長野県穂高高等学校 軽音楽部	7697	東海市	愛知県立東海商業高等学校 フォークソング部	5669	京都市	京都府立洛北高等学校 音楽研究部
5473	鹿ヶ嶋市	茨城県立鹿ヶ嶋第一高等学校 軽音楽部	7307	安曇野市	長野県豊科高等学校 LMC 部	7685	日進市	中部大学第一高等学校 軽音楽部	5672	京都市	京都文教高等学校 軽音楽部
5475	鹿ヶ嶋市	茨城県立鹿ヶ嶋第二高等学校 軽音楽部	7312	安曇野市	長野県明科高等学校 軽音楽部	7712	半田市	愛知県立半田工業高等学校 音楽部	5695	京都市	大谷高等学校 軽音楽部
5476	鹿ヶ嶋市	茨城県立鹿ヶ嶋高等学校 軽音楽部	7234	伊那市	長野県伊那北高等学校 軽音楽部	7713	半田市	愛知県立半田高等学校 フォークソング部	5670	京都市	同志社女子高等学校 軽音楽部
5491	宇都宮市	宇都宮短期大学附属高等学校 軽音楽部	7255	小山市	長野県伊那南高等学校 軽音楽部	7687	豊橋市	愛知県立豊橋工業高等学校 音楽部	5679	京都市	同志社女子高等学校 軽音楽部
5482	宇都宮市	栃木県立宇都宮女子高等学校 軽音楽部	7251	伊那市	長野県伊那南高等学校 軽音楽部	7726	豊橋市	豊橋中央高等学校 軽音楽部	5712	京都市	京都市立東高等学校 軽音楽部
5484	宇都宮市	栃木県立宇都宮宮内高等学校 軽音楽同好会	7237	塩尻市	長野県塩尻志能高等学校 軽音楽部	7737	豊田市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5716	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5487	宇都宮市	栃木県立宇都宮白根高等学校 軽音楽部	7295	塩尻市	長野県白根高等学校 ギター部	7737	豊田市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5492	宇都宮市	日々輝学園高等学校 軽音楽同好会	7239	岡谷市	長野県岡谷高等学校 軽音楽部	7735	豊田市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5719	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5498	佐野市	栃木県立佐野高等学校 ギター部	7231	下伊那郡	長野県阿智高等学校 軽音楽同好会	7736	豊田市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5719	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5506	鹿沼市	栃木県立鹿沼高等学校 軽音楽同好会	7232	下伊那郡	長野県阿智高等学校 軽音楽部	7737	豊田市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5507	小山町	栃木県立小山高等学校 軽音楽部	7245	下伊那郡	長野県阿智高等学校 軽音楽部	7737	豊田市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5509	小山町	栃木県立小山高等学校 軽音楽部	7248	下伊那郡	長野県阿智高等学校 軽音楽部	7737	豊田市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5508	小山町	栃木県立小山高等学校 軽音楽部	7278	下伊那郡	長野県阿智高等学校 軽音楽部	7737	豊田市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5512	足利市	足利短期大学附属高等学校 軽音楽部	7236	佐久市	佐久平総合技術高等学校 軽音楽部	9530	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5517	足利市	栃木県立足利高等学校 ギター同好会	5639	佐久市	長野県若林高等学校 軽音楽部	9447	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5518	足利市	栃木県立足利高等学校 軽音楽部	7314	佐久市	長野県若林高等学校 軽音楽部	7563	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5521	足利市	栃木県立足利高等学校 軽音楽部	7314	佐久市	長野県若林高等学校 軽音楽部	7563	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5523	足利市	栃木県立足利高等学校 軽音楽部	7256	小城市	長野県小城市高等学校 軽音楽部	7647	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5527	大田原市	栃木県立大田原女子高等学校 フォークソング部	7257	小城市	長野県小城市高等学校 軽音楽部	7647	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5532	栃木市	栃木県立栃木高等学校 軽音楽部	7224	小城市	長野県小城市高等学校 軽音楽部	7648	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5529	栃木市	栃木県立栃木工業高等学校 ギター部	7229	小城市	長野県小城市高等学校 軽音楽部	7656	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5533	栃木市	栃木県立栃木女子高等学校 軽音楽部	7228	小城市	長野県小城市高等学校 軽音楽部	7683	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5540	栃木市	栃木県立那須高等学校 軽音楽同好会	7233	小城市	長野県小城市高等学校 軽音楽部	7684	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5547	日光市	栃木県立日光高等学校 軽音楽同好会	7260	小城市	長野県小城市高等学校 軽音楽部	7685	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5546	日光市	栃木県立日光高等学校 ギター部	7261	小城市	長野県小城市高等学校 軽音楽部	7685	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5557	東京都	新島学園高等学校 軽音楽部	7262	小城市	長野県小城市高等学校 軽音楽部	7685	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5562	伊勢崎市	群馬県立伊勢崎高等学校 軽音楽部	7264	小城市	長野県小城市高等学校 軽音楽部	7685	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5560	伊勢崎市	群馬県立伊勢崎清見高等学校 軽音楽部	7265	小城市	長野県小城市高等学校 軽音楽部	7685	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5565	千葉県	群馬県立上田高等学校 軽音楽部	7266	伊那市	長野県伊那高等学校 軽音楽部	7613	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5570	千葉県	群馬県立桐生高等学校 軽音楽部	7282	伊那市	長野県伊那高等学校 軽音楽部	7614	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5571	千葉県	群馬県立桐生高等学校 軽音楽部	7282	伊那市	長野県伊那高等学校 軽音楽部	7614	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5579	高崎市	群馬県立高崎高等学校 軽音楽部	7227	上田市	長野県上田高等学校 軽音楽部	7657	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5583	高崎市	群馬県立高崎工業高等学校 軽音楽部	7247	上田市	長野県上田高等学校 軽音楽部	7674	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5589	高崎市	群馬県立高崎商業高等学校 軽音楽同好会	7267	上田市	長野県上田高等学校 軽音楽部	7682	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5584	高崎市	群馬県立高崎高等学校 軽音楽部	7268	上田市	長野県上田高等学校 軽音楽部	7695	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5591	高崎市	高崎健康福祉大学附属高等学校 軽音楽部	7269	上田市	長野県上田高等学校 軽音楽部	7696	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5590	高崎市	高崎学院大学附属高等学校 軽音楽部	7270	上田市	長野県上田高等学校 軽音楽部	7700	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5592	高崎市	高崎学院大学附属高等学校 軽音楽部	7270	上田市	長野県上田高等学校 軽音楽部	7700	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5597	佐渡郡	群馬県立五井高等学校 軽音楽部	7245	諏訪郡	長野県諏訪高等学校 軽音楽部	7705	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5599	沼田市	群馬県立沼田高等学校 軽音楽部	7305	諏訪郡	長野県諏訪高等学校 軽音楽部	7744	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5602	沼田市	群馬県立沼田高等学校 軽音楽部	7271	諏訪市	長野県諏訪高等学校 軽音楽部	5640	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5604	沼田市	群馬県立沼田女子高等学校 軽音楽部、ギター部	7272	諏訪市	長野県諏訪高等学校 軽音楽部	7747	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5616	前橋市	共愛学園高等学校 FGR 部	7273	諏訪市	長野県諏訪高等学校 軽音楽部	7749	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5614	前橋市	群馬県立前橋高等学校 軽音楽部	7275	須賀市	長野県須賀高等学校 軽音楽部	7750	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5617	前橋市	群馬県立前橋高等学校 軽音楽部	7275	須賀市	長野県須賀高等学校 軽音楽部	7750	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5621	太田市	群馬県立太田高等学校 軽音楽部	7281	千曲市	長野県千曲高等学校 軽音楽部	7752	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5624	太田市	群馬県立太田高等学校 軽音楽部	7242	千曲市	長野県千曲高等学校 軽音楽部	7752	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5623	太田市	群馬県立太田高等学校 軽音楽部	7280	大田市	長野県大田高等学校 軽音楽部	7754	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5626	太田市	群馬県立太田高等学校 軽音楽部	7285	中野市	長野県中野高等学校 軽音楽部	7759	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5628	藤岡市	群馬県立藤岡高等学校 軽音楽部	7253	長野市	長野県長野高等学校 軽音楽部	7760	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5631	富岡市	群馬県立富岡高等学校 軽音楽部	7254	長野市	長野県長野高等学校 軽音楽部	7761	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5632	邑楽郡	群馬県立邑楽高等学校 軽音楽部	7259	長野市	長野県長野高等学校 軽音楽部	7762	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
5625	邑楽郡	群馬県立邑楽高等学校 軽音楽部	7259	長野市	長野県長野高等学校 軽音楽部	7762	名古屋市	愛知県立豊田高等学校 ギター部	5718	名古屋市	京都府立白鷺高等学校 フォークソング部
6825	加茂市	加茂学院高等学校 軽音楽同好会	7287	長野市	長野県長野高等学校 軽音楽部	7774	伊勢市	三重県立伊勢高等学校 軽音楽部	4282	大阪市	大阪府立伊勢高等学校 軽音楽部
6945	佐渡市	新潟県立佐渡高等学校 音楽部	7288	長野市	長野県長野高等学校 軽音楽部	7788	伊勢市	三重県立伊勢高等学校 軽音楽部	8130	大阪市	大阪府立伊勢高等学校 軽音楽部
6946	佐渡市	新潟県立佐渡高等学校 音楽部	7289	長野市	長野県長野高等学校 軽音楽部	7792	山手市	三重県立山手高等学校 軽音楽部	7951	大阪市	大阪府立山手高等学校 軽音楽部
6950	三条市	新潟県立三条高等学校 軽音楽同好会	7292	長野市	長野県長野高等学校 軽音楽部	7792	山手市	三重県立山手高等学校 軽音楽部	4289	大阪市	大阪府立山手高等学校 軽音楽部
6955	三条市	新潟県立三条高等学校 軽音楽部	7294	長野市	長野県長野高等学校 軽音楽部	7792	山手市	三重県立山手高等学校 軽音楽部	4289	大阪市	大阪府立山手高等学校 軽音楽部
6951	水戸市	新潟県立水戸高等学校 軽音楽部	9506	長野市	長野県長野高等学校 軽音楽部	7801	桑名市	三重県立桑名高等学校 軽音楽部	8076	大阪市	大阪府立桑名高等学校 軽音楽部
6952	水戸市	新潟県立水戸高等学校 軽音楽部	9506	長野市	長野県長野高等学校 軽音楽部	7801	桑名市	三重県立桑名高等学校 軽音楽部	8076	大阪市	大阪府立桑名高等学校 軽音楽部
6954	十日町市	新潟県立十日町高等学校 音楽部	7318	長野市	長野県長野高等学校 軽音楽部	7804	四日市市	三重県立四日市工業高等学校 軽音楽部	8140	大阪市	大阪府立四日市工業高等学校 軽音楽部
6959	十日町市	新潟県立十日町高等学校 音楽部	7319	長野市	長野県長野高等学校 軽音楽部	7807	四日市市	三重県立四日市工業高等学校 軽音楽部	7992	大阪市	大阪府立四日市工業高等学校 軽音楽部
6932	上越市	関根学園高等学校 軽音楽同好会	7320	長野市	長野県長野高等学校 軽音楽部	7841	四日市市	三重県立四日市工業高等学校 軽音楽部	7962	大阪市	大阪府立四日市工業高等学校 軽音楽部
6939	上越市	上越高等学校 軽音楽同好会	7266	東部市	長野県東部高等学校 軽音楽部	7823	松本市	三重県立松本市高等学校 軽音楽部	8010	大阪市	大阪府立松本市高等学校 軽音楽部
6960	上越市	上越高等学校 軽音楽部	7295	長野市	長野県長野高等学校 軽音楽部	7814	松本市	三重県立松本市高等学校 軽音楽部	4298	大阪市	大阪府立松本市高等学校 軽音楽部
6941	上越市	新潟県立上越高等学校 軽音楽同好会	7300	山形市	山形県山形高等学校 軽音楽部	9522	津市	一志学園高等学校 軽音楽部	8049	大阪市	大阪府立一志高等学校 軽音楽部
6943	上越市	新潟県立上越高等学校 軽音楽部	7301	山形市	山形県山形高等学校 軽音楽部	9522	津市	一志学園高等学校 軽音楽部	8049	大阪市	大阪府立一志高等学校 軽音楽部
6961	上越市	新潟県立上越高等学校 軽音楽部	7302	山形市	山形県山形高等学校 軽音楽部	9522	津市	一志学園高等学校 軽音楽部	8049	大阪市	大阪府立一志高等学校 軽音楽部
6960	新潟市	新潟県立巻高等学校 ギター部	7304	山形市	山形県山形高等学校 軽音楽部	9522	津市	一志学園高等学校 軽音楽部	8049	大阪市	大阪府立一志高等学校 軽音楽部
6965	新潟市	新潟県立新潟工業高等学校 音楽部	7283	山形市	山形県山形高等学校 軽音楽部	9522	津市	一志学園高等学校 軽音楽部	8049	大阪市	大阪府立一志高等学校 軽音楽部
6974	新潟市	新潟県立新潟高等学校 軽音楽同好会	7298	山形市	山形県山形高等学校 軽音楽部	9522	津市	一志学園高等学校 軽音楽部	8049	大阪市	大阪府立一志高等学校 軽音楽部
6977	新潟市	新潟県立新潟中央高等学校 ギター部	7249	山形市	山形県山形高等学校 軽音楽部	9522	津市	一志学園高等学校 軽音楽部	8049	大阪市	大阪府立一志高等学校 軽音楽部
6982	新潟市	新潟県立新潟工業高等学校 ギター部	7249	山形市	山形県山形高等学校 軽音楽部	9522	津市	一志学園高等学校 軽音楽部	8049	大阪市	大阪府立一志高等学校 軽音楽部
7024	新潟市	新潟県立新潟高等学校 ギター部	7249	山形市	山形県山形高等学校 軽音楽部	9522	津市	一志学園高等学校 軽音楽部	8049	大阪市	大阪府立一志高等学校 軽音楽部
6970	新潟市	新潟県立新潟高等学校 軽音楽部	7249	山形市	山形県山形高等学校 軽音楽部	9522	津市	一志学園高等学校 軽音楽部	8049	大阪市	大阪府立一志高等学校 軽音楽部
6973	新潟市	新潟県立新潟高等学校 軽音楽部	7249	山形市	山形県山形高等学校 軽音楽部	9522	津市	一志学園高等学校 軽音楽部	8049	大阪市	大阪府立一志高等学校 軽音楽部
7025	新潟市	新潟県立新潟高等学校 軽音楽部	7249	山形市	山形県山形高等学校 軽音楽部	9522	津市	一志学園高等学校 軽音楽部	8049	大阪市	大阪府立一志高等学校 軽音楽部
6988	新発田市	新潟県立新発田高等学校 ギター同好会	7335	可児市	岐阜県立可児高等学校 軽音楽部	7839	鈴鹿市	三重県立鈴鹿高等学校 軽音楽部	8112	大阪市	大阪府立鈴鹿高等学校 軽音楽部
6987	新発田市	新潟県立新発田高等学校 軽音楽部	7327	岐阜市	岐阜県立岐阜高等学校 軽音楽部	9512	鈴鹿市	三重県立鈴鹿高等学校 軽音楽部	8079	大阪市	大阪府立鈴鹿高等学校 軽音楽部
6938	村上市	新潟県立村上高等学校 軽音楽部	7366	岐阜市	岐阜県立岐阜高等学校 軽音楽部	9512	鈴鹿市	三重県			

高等学校文化連盟軽音楽専門部／高等学校軽音楽連盟 連絡先一覧

これは各都道府県の高等学校文化連盟軽音楽専門部、および高等学校軽音楽連盟の連絡先です。各組織に参加することで公式大会に参加したり、他校の顧問の先生と交流する機会が増えます。下記に掲載されていない県の高等学校の軽音楽系部活動の顧問の先生で、県をまとめて組織化しようと思われる方は全国学校軽音楽部協会（info@keionkyo.org）までご一報ください。高等学校の軽音楽部の発展を目指して、頑張りましょう。

	都道府県	団体名	学校数	生徒数	連絡先
北海道	北海道	北海道高等学校文化連盟軽音楽専門部 北海道高等学校軽音楽連盟	80校 38校	約2,000名 1,268名	【田澤英貴／委員長】北海道札幌厚別高等学校
東北	岩手県	岩手県高等学校文化連盟軽音楽専門部	21校	614名	【木村 健／専門部理事】岩手県立盛岡南高等学校
	宮城県	宮城県高等学校文化連盟軽音楽専門部	40校	約1,769名	【平澤和昭／軽音楽専門部理事】尚絅学院高等学校
関東	茨城県	茨城県高等学校軽音楽連盟			【高野陽輔／委員長】茨城県立竹園高等学校
	埼玉県	埼玉県高等学校軽音楽連盟	61校	約2,000名	【齋藤教雄／事務局長】埼玉県立浦和高等学校
	千葉県	千葉県高等学校軽音楽連盟	28校	約500名	【島 晴己子／委員長】東海大学付属浦安高等学校・中等部
	東京都	東京都高等学校文化連盟軽音楽部門 東京都高等学校軽音楽連盟	119校	約6,500名	【佐々木弘人／委員長】成女高等学校
	神奈川県	神奈川県高等学校文化連盟軽音楽専門部会 神奈川県高等学校軽音楽連盟	52校	約2,600名	【橘 秀樹／委員長】神奈川県立相模原弥栄高等学校
中部	長野県	長野県高等学校文化連盟軽音楽専門部	66校	2,123名	【金山幸信／事務局長】長野県野沢南高等学校
	静岡県	静岡県高等学校文化連盟軽音楽専門部	19校	約900名	【小澤知彦／専門部長】静岡県立静岡西高等学校
	愛知県	愛知県高等学校軽音楽連盟	27校	約1,500名	【中村弘之／委員長】名古屋経済大学市邨高等学校
近畿	奈良県	奈良県高等学校軽音楽連盟	8校	約300名	【渡邊敬久／事務局長】奈良育英中学校高等学校
	滋賀県	滋賀県高等学校軽音楽部会	18校	約650名	【村田 良／代表幹事】滋賀県立大津清陵高等学校通信部
	京都府	京都府高等学校軽音楽連盟	19校	650名	【中川龍一／委員長】京都光華高等学校
	大阪府	大阪府高等学校芸術文化連盟軽音楽部会 高等学校軽音楽部連盟大阪	103校 (104団体)	約3,000名	【追田和哉／運営委員】大阪府立平野高等学校
	兵庫県	高等学校軽音楽部連盟兵庫	31校	約1,350名	【岡崎宏省／連盟長】兵庫県立武庫荘総合高等学校
	和歌山県	和歌山県高等学校文化連盟軽音楽部会 和歌山県高等学校軽音楽連盟	9校	約340名	【横出加津彦／代表理事】和歌山県立粉河高等学校
中国	広島県	広島県高等学校文化連盟軽音楽専門部 広島県高等学校軽音楽連盟	24校	約700名	【井上伸明／委員長】広島県立五日市高等学校
四国	高知県	高知県高等学校文化連盟軽音楽専門部	26校	約700名	【横田直祐／事務局長】高知県立窪川高等学校
九州・沖縄	福岡県	福岡県高等学校軽音楽連盟	20校	約700名	【大谷伸弥／委員長・事務局長】福岡県立筑前高等学校
	熊本県	熊本県高等学校軽音楽連盟	14校	約250名	【森 宏之／理事長】熊本県立済々黌高等学校
	鹿児島県	鹿児島県高等学校文化連盟軽音楽専門部	19校	約200名	【守田佑一／委員長】鹿児島県立鹿屋高等学校
	沖縄県	沖縄県高等学校文化連盟軽音楽専門部	43校	約430名	【波平貢司／委員長】沖縄県立球陽高等学校
		合計	847校	約29,776名	

は専門部のある都道府県を意味します

2021年4月1日現在、敬称略

部活動運営の8つの提案

「軽音楽部」は現在、かつてないほどの注目を集めています。しかし、しっかりとした運営スタイルが確立されている運動部や吹奏楽部などと比べると、学校や世間から市民権を得るまでには、まだまだ時間がかかりそうです。春になると、今まで後輩だった1年生が部活動を牽引する「先輩」となり、新入部員を迎える時期になります。この機に「軽音楽部の在り方」や「部活動とは何か」などを、新入部員を迎える準備と共に様々な角度から考えてみてはいかがでしょうか。



提案1 「軽音楽部とは何か」を再確認する

軽音楽部は「部活動」です。すなわち軽音楽部は、軽音楽（ロック、ポップス、広義ではジャズなども含む）を通して生徒の成長を育むことが目的です。近年、軽音楽部が注目されてきている理由は、単なるブームや軽音楽の大衆化だけではなく、関係者の間で「責任感や連帯感の育成」として軽音楽が適していると認知されてきたことと、そしてそれを周囲に理解してもらうための顧問の皆さんの努力があったからだと思います。

軽音楽部は他の部活動と大きく違います。アンサンブルでは運動部のような連帯感や責任感が必要で、オリジナル曲の制作には絵画部のような創作性が必要です。しかも、それを基本的にバンド単位やユニット単位というチームで行うスタイルは、今までになかった新しい部活動の姿であり、生徒の育成にとって最も有効な活動と言えます。

また、軽音楽部の活動内容は、楽器を習得することやバンド単位で演奏することだけではありません。ライブイベントでは大きなステージで演奏することができ、部員が全体の企画運営から音響・照明も行います。CD制作を行っている学校では、レコーディング機材も部員が扱う場合もあり、普通のバンド活動では、なかなかこうした機材の扱いやスタッフ側との連携を知ることはできません。軽音楽を通して演奏以外の様々な知識や経験を得られることも「部活動」としての大きな利点です。まずは軽音楽部の特殊性と希少性、そして重要性を再認識するべきかもしれません。

提案2 新入部員の獲得方法を考える

当然のことながら、部活動は部員がいないと成り立ちません。入学式が終わってしばらくすると「部活動紹介」のような会が設けられると思います。ここでしっかりとしたアピールをすることが、より多くの新入部員獲得につながります。ほんの短い時間では「普段こういう練習をしています」とか「楽しい部活動です」といった話で終わってしまうことが多いと思いますが、短い時間で的確に新入生の心を掴むには、「初心者でも大丈夫」「全員ライブできます」「合宿やレコーディングをします（ない場合は合同イベントや大会出場などでも良いかもしれません）」といったことを強調して、安心感と期待感を持ってもらうことが大切です。部活動紹介の前に、部長を中心に「どんなことを」「どのように」伝えるのかを、しっかりとミーティングして何度も繰り返し練習しておくべきでしょう。

また、入部希望者が見学に来た時にガラガラとした練習風景や統率の取れていない姿を見せちゃっては元の本阿弥です。新入生が思わず入部を決めてしまうような、しっかりとした「部活動」であることをこの時までに引き継いでおかねばなりません。

可能であれば「勧誘のポスターを自作する」「体験入部を行う」「新歓イベントを企画する」などのアイデアも有効だと思います。普段の練習場所、部室、機材、過去の実績などを見てもう「ツアー」を組んだり、宣伝係などを任命して、生徒たちに自主的にアイデアを出させることも、部員としての責任感を持たせることにつながるかもしれません。

提案3 新2年生に「先輩」としての自覚を持たせる

1年間にわたり培ってきた、部の「運営手順」や「ルールの遵守」は、新年度を迎えるにあたり1度リセットされます。新入部員にこれらを1から教えていくために最も理想的なのは、顧問がいちいち口を出さなくても上級生たちが「先輩」として新入部員のケアをしてくれることです。特に今まで教わる側の立場だった1年生が、春からは上級生となって教える側になります。彼らがいかに「先輩」としての自覚を持ち、「部活動とは何か」を新入部員に伝えていけるかがカギとなります。

軽音楽部は、かつてのネガティブなイメージから脱皮して新たな時代へと向かっています。しっかりと「部活動」として成立している軽音楽部にするためには、生徒自身がどう考え、どう行動するかを常に意識しておく必要があります。良い面も悪い面も新入部員は先輩を参考にするものです。部活動の中だけではなく、部員の生活態度も重要となります。服装の乱れや挨拶の有無などに普段から気を付け、遅刻や欠席がない、成績が良いなど「ちゃんとした部活動なんだ」ということを部員たち自らが示し、新入部員の手本になるような行動をさせなければなりません。

提案4 部室の整理整頓

「部室」というものは、古今東西あまり綺麗なイメージはありません。機材や道具などが散乱し、壁に貼られた掲示物などは破れかけたまま。加えて部員の私物がとろろせましと放置さ

れ、倉庫のようなホコリっぽい匂い…といった感じです。しかし、そこが狙い目となります。イメージが悪いからこそ、整理整頓されてイヤな匂いもなく、今後のスケジュールや連絡事項がキレイに掲示されている…といった部室であれば、初めて足を踏み入れる新入生の驚きは倍増です。部室の場所や環境は学校によって様々だと思います。機材置き場になってしまっている場合もあるでしょう。春休みは部室や練習場所の環境や状態を見つめ直す良いチャンスかもしれません。年度変わりに機材の点検や清掃をしておくことも必要です。使いやすく過ごしやすい、誰にでも自慢できるような部室にしましょう。

絵画部や書道部などの創作がメインとなる部活動の部室の壁には、部員の作品や研究発表などが掲示されていることが多いと思います。運動部が獲得したトロフィーや賞状は、学校の玄関ホールなどに飾られていたりもします。適した場所があることが前提ですが、軽音楽部でも部室の壁にライブの写真や制作したCDを飾るとか、イベント情報の告知を掲示するなど、部活動として盛んであることを示せるような部室にしていくことも、校内のポジションの確立への手助けとなるかもしれません。

提案5 「部則」を作る

ただ単に長く続いていることは「伝統」とは言えません。新入部員を迎える前に、まずは部員たちが今までの活動を振り返り、未来の軽音楽部の構想をしっかりと持つことが大切です。軽音楽部を今後どのような部活動にしていけるのか、どうしたら伝統ある部活動にしていけるのかをまとめて「部則」を作りましょう。既にちゃんとした部則がある学校もあると思いますが、まだ存在していない学校は、ぜひ検討してください。部則は軽音楽部の主旨であり、部員の指針です。主な内容としては、「これをしてはいけない」という禁制的なものでも、「こうあるべきだ!」という心得のようなものでも良いと思います。部員全員がそれを日頃から守っていこうと思える項目を作ることによって、部活動は結束し、良い上下関係を生むことにもつながるでしょう。

提案6 活動を「全員」で行う

一般的に、軽音楽部はバンドがいくつか集

まってできていると思われがちですが、最近ではそういったかつてのスタイルではない学校が増えています。軽音楽部への参加は「バンド単位」ではなく、あくまでも「個人」であり、バンドという形態は音楽を奏するためのチーム分けに過ぎません。軽音楽部の目的は「音楽を通しての育成」であって「バンド活動」ではないからです。

最近では、部員全員によるミーティングを毎日したり、全体練習（リズム・トレーニングや発声練習、スケール練習など）を行っている学校が増えています。これらによって基礎が上達し、それぞれの今後の課題が明確になり、また部活動としてしっかりとした上下関係の構築をすることができます。これらは明らかに良い効果を生み、実際に行っている学校の方がコンテストなどで上位に食い込む率が高いようです。

まず行うべきことはミーティングです。毎日の部活動の始めと終わりに部員全員が集まり、その日の予定や今後のスケジュールを確認し、問題点を話し合ったり反省会などを行うことによって、統率のとれた「部活動」となっています。ミーティングとまではいかなくても、部活動の始めと終わりに全員で挨拶するだけでも効果はあると思います。

全員参加によるリズム・トレーニングやパートごとの基礎練習は、バンド単位での練習時間を割いてでも行うべきです。目的は「技術的」及び「音楽的」な基礎の向上です。自分1人ではなかなかやらない基礎練習を、半ばムリヤリ行うことで音楽的な技術は確実に向上し、バンド練習の時に思いっきりクリエイティブな方面に没頭できるようになります。新入部員の中には楽器やバンドをやったことがないという人も多いためです。楽器の演奏方法や機材の扱い方、譜面の読み方、リズムの大事ななどの基礎を1から丁寧に教えていくことによって、新入部員も安心して部活動に参加できるようになると思います。

提案7 「連絡ノート」を作る

組織的にものごとを進めていく場合に、最も大事とされているのは「ハウレンソウ」と「PDCAサイクル」です。言うまでもなく、ハウレンソウとは「報告」「連絡」「相談」を略した言葉です。何をするにしても必ず顧問や部長へのこの3つを怠らないようにします。危機管理などという大げさなものではありませんが、トラブル防止のためにも必ず守らせなくて

はいけません。

「PDCAサイクル」とは、Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）を繰り返すことによって、活動をシェイプアップして発展させていくことです。これらがちゃんと行われていれば、必ず組織としてより良い軽音楽部になっていくはずです。

この「ハウレンソウ」と「PDCAサイクル」を行うのに最適なのが「連絡ノート」です。やり方は様々ですが、日々の練習の報告、成果、課題などを顧問の先生とやりとりしておくことや、今日の結果と反省を考えて「活動日誌」を書くことで、今後のモチベーションの向上にもつながっていきます。中にはSNSや部のブログを使って行っている学校もあります。SNSの運営には細心の注意が必要ですが、うまく機能すれば学校側や対外的にも部の活動を知ってもらう機会となり、保護者の皆さんや入学希望の方々にも軽音楽部をアピールすることができます。

提案8 「合宿」を行う

全国の軽音楽部の中には「合宿」を行っている学校も少なくありません。行かどうかは別として、合宿を行えるということは、学校側が「ちゃんとした部活動」であると認めたという証でもあります。評判の悪い（イメージが悪い）部活動では学校側も合宿を認めてくれないのは当然です。逆に言えば、合宿が認められる部活動になって初めて「良い軽音楽部」になったということだとも言えます。

合宿では長時間の練習が可能で、余裕をもってバンド練習に打ち込めます。また、よく言う「同じ釜のメシを食う」ことによって、メンバー間や部員同士のコミュニケーションも深まり、部活動全体のレベル向上を含め様々な相乗効果をもたらします。夏休みに行えば、大会などに向けた最終調整という意味でも大きな意義を持ちます。



以上のことをこれから始めようとする、少しパワーがいるかもしれませんが、顧問の皆さんと部員全員が丸となって、新入部員に軽音楽部の素晴らしさと音楽の楽しさを伝え、軽音楽部のさらなる発展のために、ぜひできることから始めていきましょう。

軽音楽部 2.0

～軽音楽部がさらに市民権を得るために～



その昔、昭和の時代のまだ軽音楽部が荒れていた頃、その地位を少しでも向上させるべく、生徒指導をされてきた顧問の先生方…今やベテランの領域だと思います…のご苦労は大変だったと思います。そのおかげで、軽音楽部を取り巻く環境は格段に良くなりましたが、まだまだ他の部活動に比べると肩身の狭い感じは否めません。平成も終わり、令和には時代や環境に合わせた指導や楽器／機材の環境、生徒の意識改革などが必要ではないでしょうか。

文：三谷佳之（特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会 理事長）

①部活動としての軽音楽部 規範は他の部活動と同様

軽音楽部は学校が認める部活動のひとつです。部の活動という限り、バンド単位ではなく、部として全体で活動することが基本になるはずです。毎日活動していない、全体での練習をしない、バンド練習の入っていない部員は帰ってしまう、大会では出演するバンド以外は会場に足を運ばない…などは、他の部活動からすると不思議に思えることでしょう。校内での普段の部活動だけでなく、公式な部活動として高等学校文化連盟に軽音楽専門部を設置してもらうには、他の

専門部からの応援や信用がないと成り立ちません。それは部室での頑張り度合や大会での成績や表彰状ではなく、高校生として、部活動として、どのような活動をしているかが要だと思います。もちろん、生徒の生活態度や成績が影響することは言うまでもありません。

②軽音楽部の強みは 社会が求める人材の育成

軽音楽部では練習する楽曲を決めるところからメンバー同士の「コミュニケーション」が必要になり、いざ演奏するとなるとみんなで合奏するわけですから「チームワーク」が育まれ、オリジナル曲の作成は言うに及ばず、コピー曲のアレンジでさえ、「クリエイティビティー」が磨かれることになります。つまり、「コミュニケーション」と「チームワーク」と「クリエイティビティー」を楽器演奏やバンド活動を通して学ぶことができ、高校生の人間形成に役立つのが軽音楽部の特長だと思います。楽器の演奏がうまくなったり、大会でグランプリを取ることは軽音楽部の主たる目的ではなく、もちろん、プロ・ミュージシャンの養成機関でもありません。それらは真面目に活動し

た際の副産物です。この3つは社会に出た際に役に立つスキルであり、これに長けた人を社会や企業が求めています。そんな素晴らしい部活動ですが、現在のところ、校内や社会的な地位があまり高くないのが残念です。



③ライブ活動 vs 部活動 営利事業と教育の一環

校外でバンドが演奏していると、それが校外で自由に活動する高校生バンドなのか、軽音楽部に所属するバンドなのかの区別は制服でも着ていない限り、難しいです。昨今、ライブハウスが高校生



バンドを集めたイベントを主催する機会が増えており、軽音楽部に所属するバンドも出演しているようです。軽音楽部のバンドが校外のイベントに参加する場合、それは校外活動となるわけですから、顧問の引率があるのか、部員全員で参加（応援）するのか、主催者は学校（顧問）を経由して参加を依頼しているのか…など、注意すべき点は少なくありません。また、出演する側にチケットノルマが生じたり、チケットを友達に購入してもらうことも出てきます。日本音楽著作権協会（JASRAC）ではイベントの主催や共催に株式会社が入っていると営利目的と看做すそうです。そういう意味では、部活動が民間企業の営利事業に加担してよいのか…という疑問が生じます。発表の場が少ないという理由も理解できますが、部活動である以上、他の部活動に並ぶ活動を心掛けるべきであり、目指すべきは公式な演奏会や大会であり、数が少ないのであれば増やす努力が先ではないかと思います。



④ 顧問は部活動の運営者 発表の場の創出が急務

軽音楽部が部活動のひとつであり、教育的観点から欠かさないのが、顧問に求められるものは技術指導ではなく、生徒指導だと思います。政府の「働き方改革」や文化庁の「文化庁活動の在り方に関する総合的なガイドライン」には、部活動の専門的な技術指導は外部コーチに委託し、顧問は辞書通りの顧問として、部活動の運営者になることだと言われています。技術指導から解放されることで、一般の教員でも軽音楽部の顧問を引き受けられるようになるはず。当協会では軽音楽部の指導に関するガイドラインを作成し、楽器やバンドの未経験者でも指導体制が作れるようにしたいと考えています。顧問は生徒指導や部活動の運営に徹し、技術指導は外部コーチや上級生が下級生に教えるというスタイルです。外部コーチによる指導ガイドラインやコーチ育成に関しては、音楽専門学校や音楽大学などと

協議しながら進めていきます。また、顧問の先生には演奏活動の発表の場や機会の創出に尽力を賜りたいです。複数の高校での合同演奏会や地域イベントへの参加など、教育の一環という観点を持った発表会を用意することで部活動らしい活動ができるようになると思います。



⑤ 転ばぬ先の杖ではなく、 失敗もまた経験と考える

部活動の主目的が教育であり、人間形成であるなら、失敗をすることで学ぶことも少なくないはずです。楽器の演奏がなかなか上達しなかったり、本番でミスしてしまったり、バンドのメンバーと喧嘩をしたり…いろいろな失敗の要素が待ち構えています。顧問自身、楽器演奏ができたり、バンド活動の経験者なら、練習方法や演奏方法に口出しをしたり、演奏会や大会の大事なシーンで楽器のセッティングに手を出したくなることもあると思います。しかし、危険であるという致命的なものを除いて、転ばぬ先の杖を差し出すのは生徒の学びの機会を奪ってしまうことになります。失敗は成功の元と言います。失敗しないでスイスイと前に進む生徒もいますが、あっちこっちで失敗してしまう生徒も少なくないはず。失敗を回避する方法を教えることは生徒に「魚を与える」ことになってしまいます。生徒の将来を考えると、転ばせてしまい（失敗を経験させて）、転んだ理由を振



り、「魚の釣り方を教える（指導）」ことが大切ではないかをお願いします。

⑥ 全国レベルで考える 統一ガイドラインづくり

軽音楽部の大会がトップダウンではなく、各地の実情に合わせてボトムアップで発展してきた結果、大会の呼称、演奏時間や持ち時間、ステージの楽器、審査基準や審査員の選び方など、規定（レギュレーション）が揃っていないのが現実です。詳細は本誌の20ページの「高等学校軽音楽系コンテストのアンケート集計」をご覧ください。軽音楽部のゴールは全国高等学校文化連盟に軽音楽専門部を設置することだと思います。現時点では全国的にルールを統一を決定したり、推進する組織はありません。地域ごとに大会があり、将来、その先にブロック大会や全国大会を位置させるのであれば、演奏時間、使用楽器、審査基準、審査員の選定などに統一性が求められるのではないのでしょうか。特に審査に関しては、軽音楽部の目的は新人発掘のオーディションではありませんので、普段から高等学校の軽音楽部との接点のない方が担当すると本質を見誤りかねません。地域によって採点基準が違うのも問題を生みやすいです。当協会では演奏時間をはじめ、標準的な使用楽器の推奨や審査基準や審査員選考のためのガイドラインを識者を交えて、考えていく予定です。



⑦ 新しい軽音楽部に適した 楽器や機材選定と標準化

予算がふんだんにある軽音楽部は珍しいので、公費で揃える楽器や機材はバンドやプレイヤーのために最良のものではなく、現実的には、安く、多くの生徒が使えるものを選ぶべきではないかと思います。多くの大会やコンテストでは自分のギターは持ち込みますが、自分が慣れ親しん

だアンプでも持ち込むことは許されていません。転換時間の都合で禁止するのなら、地域や高校が違ってても使用する楽器や機材を統一しておくのが部員にとっては合理的ではないでしょうか。できれば、全国の軽音楽部の部室や大会で使われる楽器や機材が標準化され、統一されることが望ましいです。また、ドラムなどの生音の大きな楽器は校内や近隣の騒音問題に発展しがちですので、そういう高校は電子ドラムを使用することで問題解決を図るのが賢明だと思います。それが広まった場合、大会で電子ドラムを用意しておくのが公平な措置だと思います。当協会では、音を出さない「サイレント・スタジオ」と称した練習システムを提案しています。詳しくは本誌の24ページをご覧ください。

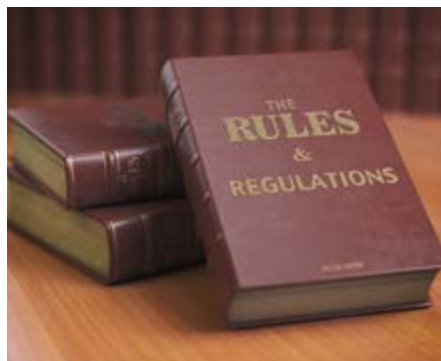


⑧ 連盟設立の初心に戻り 加盟校の意識を一枚岩に

現在、全国で2000余校ある軽音楽部の中で連盟や専門部に加盟している高校は4割に過ぎません。高等学校文化連盟に軽音楽専門部のある県は47都道府県中で12です。2年前に始まった総文祭の協賛部門での軽音楽部の発表会の火を絶やさないように、総文祭の先回りをするのも急務ではないかと思います。しかしながら、今年の佐賀県はなく、来年から3年間は高知県→和歌山県→東京都と続きますが、その先の鹿児島県は難しいでしょう。その次の岐阜県は…協会では岐阜県での専門部の設立を目指して、過日、顧問集会を開催したばかりです。

各県の高等学校文化連盟に軽音楽専門部を設立してもらうには、その前段階として軽音楽連盟を組織し、活動を積み重ねて、他の専門部などの信頼を得る必要があります。その活動とは県大会の開催だけを指すものではなく、加盟校が丸となって、情報交換や共有をし、軽音楽部を部活動として機能させることにあると思います。大会に実施要項があるように、軽音楽部の普段の活動にも行動の指針となるルールとして

「軽音楽部はかくあるべき」という憲章が必要だと思います。もちろん、十人十色、十校十色ですので、ベクトルを揃えることは容易ではありません。しかし、「個々の事案に関しては各校の顧問の判断に従う」というスタンスでは、加盟校の足並みが揃わず、一枚岩になれません。軽音楽部が部活動として、さらに市民権を得るには、全国のどこの高校の軽音楽部でも同じような（ような…です）ビジョンやガイドラインを持って活動すべきではないでしょうか。



⑨ 部への帰属意識を高め 伝統や誇りを持たせる

軽音楽部では、バンド単位だけでなく、音響や照明、ステージスタッフや進行管理など、部としての活動において、チームワークを学ぶことができます。そこから先輩や後輩との上下の関係、同級生との横の関係…つまり、縦と横の結束を図ることができます。そういう場合に欠かせないのが帰属意識を高めるモノではないでしょうか。汗をかいたり、汚れたりする運動部ではユニフォームの着用は当たり前です。軽音楽部にはユニフォームを着込む必然性はありませんが、お揃いのTシャツくらいはあっても悪くないと思います（今後、学校名入りの缶バッジの制作を推奨していく予定です）。当協会が推奨している校名入りのギターケースやスティックバッグ



など、校外の高校生バンドではやれない、軽音楽部全員で校名入りの同じものを持つことで結束力や連帯感、帰属意識が高まり、そこから母校や軽音楽部に対する誇りや愛着、部の規律や伝統などが派生してくると思います。

⑩ 支援という言葉の背景 公平性、中立性、継続性

学校や教育という特殊な環境を純粋に、本気で、支援するには営利団体が直接関与することは望ましくないと思い、特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会を設立しました。大都市でも地方でも、全国的に「公平」な支援を受けられることが大切だと思います。また、支援に関しては、軽音楽部（員）が本当に有益なサービスの提供を受けられるように「中立」であることが求められると思います。さらに、それらの支援が年度や業績の変動に関係なく、「継続」して受けられることが大切です。③でも述べましたが、日本音楽著作権協会（JASRAC）ではイベントの主催や共催に株式会社が入っていると営利事業と看做されるそうです。特定非営利活動法人であろうと、教員や教育関係者ではないという点では民間と同一視されると耳にしたこともありますが、当協会のような存在は過去になかったもので、状況判断が難しいと思います。これまでの、そしてこれからの活動を実績にして、信用を得られるように努めていきます。

私は高校生が、音楽やバンド活動を通して、楽しい学生時代を送り、豊かな人生を歩んでくれることに大いに期待しており、そのお手伝いに関与できることを幸せに感じています。軽音楽部が一朝一夕に市民権を得られるとは考えておりません。少なくとも20年は掛かるでしょう。でも、千里の道も一歩からと言います。前に進まなければ意味がありません。ここに書いたことは私見ですが、顧問の皆さんの議論のきっかけになれば幸いです。





の演奏映像を見るポイント

軽音協の YouTube チャンネルは、学内外での軽音楽部の宣伝や記念として活用していただくと共に、「他校との違い」を研究する良い材料になります。音楽的なチェック・ポイントを挙げてみますので、良いプレイは参考にし、まだまだな部分は反面教師として、部員たちと一緒に何度も見てモチベーション・アップ、ステップ・アップへとつなげてください。

プレイ

大会において、いくら個人力より総合力（アンサンブルや演奏のまとまり）を重視して審査しても、やはり技術力が高い方が有利になることは間違いありません。単純に、上手なバンドの演奏を見るだけでも部員のモチベーションは上がると思います。「あんな風に歌ったり演奏してみたい」という憧れは、大きな原動力となるでしょう。しかし、本当に見るべきポイントは、「上手さ」ではなく「巧さ」です。高い技術力を使っているかに楽曲を表現し、アンサンブルにマッチさせているか。自己表現だけではなく、合奏のために身につけた技術を使っているか…は、研究してみる価値がある部分です。

また、賞を獲るようなバンドに共通しているのが「リズムの良さ」です。個人個人もそうですが、バンドでのリズムの一体感をどれだけ重視しているかは、総合力として表れます。リズムの良さは、スタッカート、テヌート、音価、強弱、アクセント、シンコペーションといった音楽的な部分の習熟に表われるとも言えます。

パフォーマンス

パフォーマンスと言っても千差万別ですが、「見られている」と「見せている」ではステージングに大きな違いが出ます。いわゆる「発表会」とポピュラー・ミュージックの「ライブ」では目指す目標が少し違います。軽音楽はエンターテインメントなので、何かを「伝える」意識も必要です。当然、慣れもありますが、ステージ内だけを気にして演奏しているのか、ステージの外の観客に向けて全員で何かを伝えようと演奏しているかは、大きな差となって出てきます。

初歩の段階では、リズムに乗って体を動かしたり、キメやアクセントを体が動くくらい大き

く捉える、他メンバーと合わせるべきところを体を使って行う…といったことを意識するだけでも見え方はだいぶ変わります。個人の例で言えば、しっかりと前を向いてプレイしているか、顔の表情を意識しているか、演奏中にメンバーとアイ・コンタクトを取っているか、歌ったり演奏していない時に気が抜けていないか…などもチェックしてみてください。特にフロント・マンであるボーカリストは、手の使い方や視線なども重要です。

機材、サウンド・メイク

ギター・アンプやベース・アンプといった大会の常設機材は、普段学校で使っているものと違う機種になります。同じ型番であっても個体差があるので音は変わります。当日にあたふたしないためにも、現在ではエフェクターを使って音を作り、アンプによる音の変化を少なくすることが一般的です。使用機材が一緒なのにも関わらず、バンドごとにサウンドが違うことや、楽曲に合った音作りをしているかも注目して欲しいポイントです。

ギターとベースは、チューニングにも注意が必要です。初心者の場合はそこまで気がまわっていないことも多々あります。また、楽器本体の調整ができていなかったり、変則チューニン

グに全員が合わせていなかったりすると、せっかくの演奏も台無しになってしまいます。

サウンド面に関しては、キーボードも同様のことが言えます。キーボードを持ち込んだバンドは、音色の調整をしていることがほとんどです。また、ドラムのペダルやスネアも普段との違いに苦む可能性があります。スネアやペダルを持ち込んでいないドラマーは、違和感を感じながらプレイしているかもしれません。

楽曲

コピーの場合、注意が必要なのは「選曲」です。レベルに合っていない楽曲であれば、ミスが多くなるのも当然です。挑戦と確実性とのバランスが難しいですが、各バンドのレベルと選曲をアナライズしてみても面白いと思います。

また、全国ではオリジナル曲を作っている学校やバンドが増えています。楽曲自体の良し悪しではなく、その「創作過程」を推し量ることも参考になります。メンバー間で意見を出し合い、きちんと「揉め」ながら1つの作品を作ってきたか、お互いを尊重しながら自分の居場所を理解し、「One for All, All for One」になっているか、皆んなでメッセージを伝えようとしているか…といった辺りを探っていくと、バンドとしてのまとまりが見えてきます。



第3回 高等学校軽音楽コンテスト 中部大会 グランプリ
力カオ 52% / 愛知県立岩倉総合高等学校
まさに総合力の勝利。全員のリズムのキレが心地良い



第8回 愛知県高等学校軽音楽大会 奨励賞
すずらん / 名古屋経済大学市邨高等学校
大人数でのオリジナル曲。演奏のまとまりが強い

YouTube チャンネル始めました。



軽音協



チャンネル登録してね！

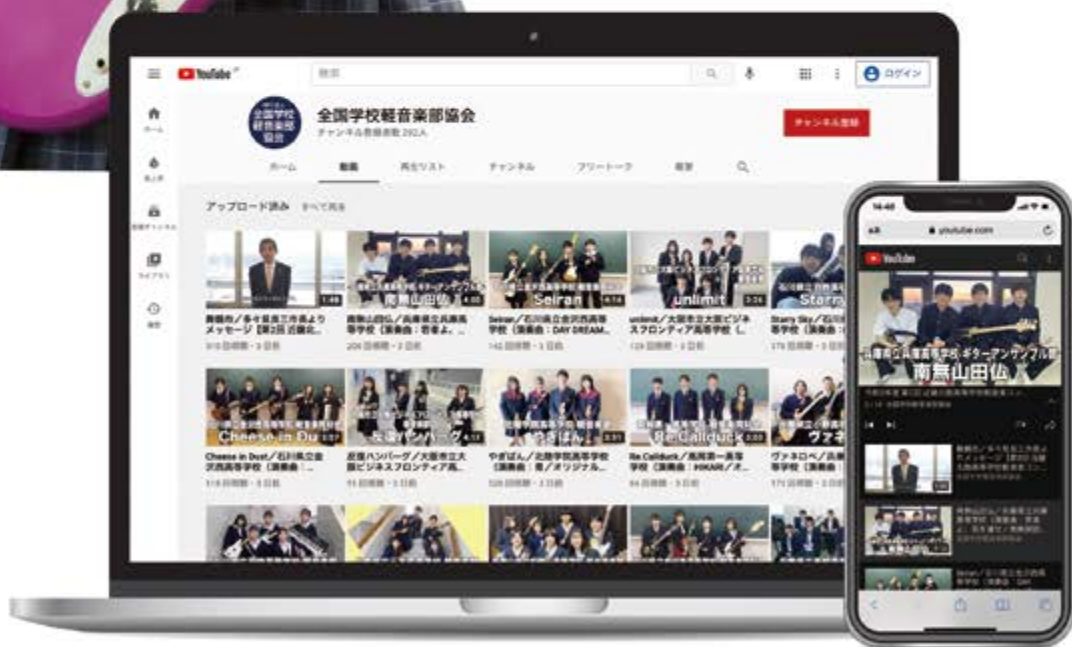
3 大会 54 バンドの 演奏映像を公開中！

第 8 回 愛知県高等学校軽音楽大会

第 3 回 高等学校軽音楽コンテスト中部大会

第 2 回 近畿北陸高等学校軽音楽コンテスト代替企画

再生リストから1バンドずつ視聴できます。



他校のバンドの
演奏から学ぼう！

特定非営利活動法人

全国学校軽音楽部協会

keionkyo.org



Facebook



令和2年度 第5回 静岡県高等学校軽音楽新人大会

開催日：令和2年12月27日（日） 会場：しずぎんホール ユーフォニア



写真はオリジナル曲部門で最優秀賞を受賞した静岡県立静岡西高等学校／×××_lord. です

世界中の通常活動が、新型コロナウイルス感染懸念下で「自粛」を余儀なくされた2020年。静岡県高等学校文化連盟軽音楽専門部でも、異例すくめの1年間を送りました。

4月の顧問総会は書面決裁で代行。各種セミナーの開催は見送り。6月の第6回静岡県大会も動画予選審査のみで終了。また、各校独自の活動も休止状態のまま、という状態に陥ってしまい、未だ明るい兆しは見えないままです。

それでも、部員生徒たちにステージ演奏をさせてあげたいとの強い信念のもと、12月27日（日）に「第5回 軽音楽新人大会」を開催。もちろん、その開催形態も異例なものとなりました。

ここまでの部活動を取り巻く状況として、秋以降に運動部では複数校が会しての練習試合や大会が再開されていました。

しかしながら、軽音楽全般の状況はもっとシビアです。3月のライブハウスでのクラスター発生の報道以降、防音対策のために密閉された空間で開催されることが多い音楽イベントは、

他の業態よりも高いハードルを越えなければならなくなりました。これは、学校部活動としての軽音楽部も同様です。私たちは、何回かの企画変更を行った後に、県高文連発出のコロナ禍感染拡大防止のマニュアルに則したギリギリのラインで開催することを決意しました。

まず、事前には約2週間にわたる体調チェックと検温の励行、保護者からの同意書の提出。当日は、受付での検温。そして、大会自体を無観客で実施としたことに加え、出場者を3つの時間帯に分け、「受付→検温→控室→演奏→退出」という流れを作りました。また、大きめの控室も用意し、導線においても異なるバンドの出場者同士の接触が必要最小限となるように配慮しました。その結果、約750名収容のホール内には、音響スタッフ4名、審査員5名、記録カメラマン2名、自校顧問が見守るのみという、出場生徒たちにとっては何とも寂しい演奏風景となっていました。観客はおろか、他の出場生徒たちの姿すらない中での演奏では、気持ち

【オリジナル曲部門】

- 聖隷クリストファー高等学校／CITRUS
静岡県立伊豆中央高等学校／Dandelion
静岡県立浜松南高等学校／S:Know
奨励賞 沼津中央高等学校／グリーンピース
奨励賞 浜松学芸中学校・高等学校／nihil
静岡県立伊豆中央高等学校／NOISE
優秀賞 静岡県立静岡西高等学校／Gleam sky
加藤学園高等学校／Valentia
清水国際高等学校／All Fiction
最優秀賞 静岡県立静岡西高等学校／×××_lord.
奨励賞 加藤学園高等学校／Ray
優秀賞 静岡県立静岡西高等学校／Jack Brains

【コピー曲部門】

- 静岡県立藤枝東高等学校／INTERACT
奨励賞 静岡県立富士高等学校／Sunny Side :)
優秀賞 沼津中央高等学校／LiLac
奨励賞 静岡県立池新田高等学校／Arcana
加藤学園高等学校／Stella
浜松学芸中学校・高等学校／プレバート
奨励賞 沼津中央高等学校／ゲエテ

【個人賞】

- ボーカル 静岡県立静岡西高等学校／井上満里奈
ギター 静岡県立静岡西高等学校／半田磨泉珠
ベース 沼津中央高等学校／君山 のま
キーボード 静岡県立静岡西高等学校／森下亜樹
ドラム 静岡県立静岡西高等学校／水上晏詩

の入り方も微妙、との感想を持つ生徒たちも少なからずいたことと推察できます。しかし、公式大会を何としても開催したい、と主催者がこの大会に託した唯一にして最大の使命は、果たせたものと役員一同、胸を撫で下ろした次第です。

さて、迎える2021年も、世の中全体がコロナ感染との闘いを強いられることは確実です。専門部活動の実施の可否にも不透明な状況が続くことでしょう。それでも、次回の県大会が無事に開催できることを祈念して、静岡県高等学校文化連盟軽音楽専門部主催の専門部別高文祭は幕を下ろしました。

写真／文：静岡県高等学校文化連盟軽音楽専門部
専門部長：小澤知彦



▲オリジナル曲部門 優秀賞
静岡県立静岡西高等学校／Jack Brains



▲オリジナル曲部門 優秀賞
静岡県立静岡西高等学校／Gleam sky



▲コピー曲部門 優秀賞
沼津中央高等学校／LiLac

令和2年度 第41回 大阪府高等学校芸術文化祭（軽音楽部門） ～ウィンターフェスティバル 2020～

2020年12月26日 藤井寺市立市民総合会館（パープルホール）

様々な活動が制限される中、徹底した感染症対策を実施した上で、大阪府高等学校芸術文化連盟軽音楽部会が主催する「大阪府高等学校芸術文化祭（軽音楽部門）～ウィンターフェスティバル 2020～」が開催されました。出場校を南北に分けて行われる年末の恒例行事。今年はどちらのチームが優勝を手にしたのでしょうか。



今年度のウィンターフェスティバルも藤井寺市にある、藤井寺市立市民総合会館（パープルホール）で開催。来場者を会場収容人数の50%以下にしたため、今回は会場からの生配信も行い、足を運べなかった部員や保護者、学校関係者などがリモートで演奏の様子を視聴しました。

開演に先立ち、大阪府高等学校芸術文化連盟軽音楽部会の副会長である、大阪府立信太高等学校長の東野仁孝先生が登場。「全国で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、流行の最中ですが、今日のようなイベントを開催できるのは大阪府の教育庁の方々が開催を許諾くださったことをはじめ、生徒の皆さんの日頃の活動や頑張りが周りの方々への信頼につながり、認めていただいていること、各校の顧問の先生方のご尽力によるものだと思います。いろいろな方々の協力や理解を得て、今日のイベントが成り立っているのです、ぜひ感謝の気持ちを忘れずに、1日を過ごして欲しいと思います。今日

は大きな声で応援したり、歓声を出すことはできませんが、皆さんの感動や声援は大きな拍手で送ってください。そして、配信をご覧いただいている皆様におかれましては、音楽の素晴らしいさと感動を生徒たちの演奏から味わっていただきたいと思いますので、ぜひお楽しみください」と述べられました。

司会を担当する各校の軽音楽部員が紹介されると、出場校が手作りのネームボードを持参して、ステージに登場。色とりどりの装飾が施され、各校のユニークなアイデアや特徴が満載のボードが披露されました。この華やかなネームボードを持参しての入場は、本イベントの目玉の1つです。なお、今年は大阪府立泉陽高等学校、大阪府立桜塚高等学校、大阪府立金剛高等学校、常翔啓光学園高等学校の軽音楽部員が担当しました。

出場校の紹介が済むと、早速、第1回戦の演奏からスタート。出場校を「北大阪チーム」と

「南大阪チーム」に分けて、交互に演奏を披露しました。審査は大阪府立清水谷高等学校ギター部の部員が担当。転換中には司会の生徒が学校の紹介文を読み上げ、「私たちは1年生12名、2年生22名で活動しています。今年はコロナ禍で他校との交流会や地域の方々の前での演奏ができず、活動の幅が縮小してしまいましたが、オリジナル曲の制作など、あらゆることに挑戦し、前向きに活動しています」「現在の部員数は1年生39名、2年生13名の計52名で、放課後に視聴覚室で活動しています。年5回の校内ライブに加え、昼休みに中庭でランチライブも行っているのが特徴の1つです。地元のイベントやコンテストへの参加など、校外でも積極的に活動し、OBやOGの先輩方から定期的に指導を受けるなど、先輩と後輩の関係を大切にしています」など、普段の様子やコロナ禍における部活動の状況が紹介されました。

定刻通りにタイムテーブルが進行し、換気休憩の時間を挟んで、エンディング・セレモニーへと移行。ネームボードの審査結果が発表され、今年は上宮太子高等学校、大阪府立桜塚高等学校、大阪府立槻の木高等学校の3校が優秀賞を受賞しました。そして、8回戦による演奏の結果、昨年に引き続き、今年も北大阪チームが優勝。最後は清水谷高校のギター部による「上を向いて歩こう」の演奏でイベントを締めくくり、今年のウィンターフェスティバルは閉幕しました。



▲今冬のフェスティバルも藤井寺市立市民総合会館で開催



▲恒例となった出場校による手作りのネームボードを披露



▲3年ぶりの開催となった愛知県立豊田西高校でのクリニック



▲辻副理事長の「アンサンブル」に関する講義は映像で実施

第98回目のデジレコ・バンド・クリニックの実施校は愛知県豊田市にある愛知県立豊田西高等学校です。2018年1月以来、3年ぶりの開催となります。平成25年に文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）【開発型】に指定された後、平成30年からは同事業の【実践型】として、独自のカリキュラムや大学、研究機関、企業との連携や課題研究など、様々な取り組みを実施。部活動も盛んで、ギター部も毎年100名近い部員を有しています。

2021年最初のデジレコ・バンド・クリニックは愛知県立豊田西高等学校のギター部です。昨年は新型コロナウイルスが猛威を振るい、首都圏をはじめ、どの部活動も思うように活動ができなかった1年でした。新年こそは…と思った矢先、1月7日に首都圏で2回目の緊急事態宣言が発令され、その後、愛知県や岐阜県にも発令されましたが、豊田西高校では「感染症対策を講じた上であれば、部活動を行っても良い」という判断が下り、予定通りに開催することができました。当日は一般教室と視聴覚室、音楽室の3部屋を使用し、参加者が3密にならないように工夫を施し、開会式も2ヶ所で時間差で開くなど、全員が集合しないようにしました。

まずは開会式からスタート。当協会の理事長がクリニックの開催趣旨や1日の流れを説明し、

豊田西高校のギター部からも歓迎の挨拶をいただきました。午前中は一般教室で「電気と音響の基礎知識」「アコースティック・ギターの基礎知識」「エレキ・ギターの基礎知識」「エフェクターと音作りの基本講座」という4つの講義を各20分ずつ実施。もう一方の教室では「部活動としての軽音楽部を考える」と「アンサンブルが良くなる練習方法」に関する映像講義と、愛知県大会や中部大会の入賞バンドの演奏映像を視聴しました。

「部活動としての軽音楽部の在り方」に関する座学では「教室や音楽室が自由に使えたり、公式な大会に出場できたり、先輩や同級生、顧問の先生から客観的なアドバイスを受けられたり…と、部活動を通して得られるものはたくさんあります。そして、複数の人が集まり、演奏したり、楽曲を作るにはコミュニケーションが大切です。演奏する曲が決まれば、パートごとに練習を重ね、演奏する際はチームワークを発揮しないと合奏になりません。また、オリジナル曲を創作したり、既存の曲をアレンジする場合もクリエイティビティーを駆使することになります」と述べ、これらを楽器の演奏や音楽を通して習得できるのが、軽音楽系部活動の最大の特長であることを紹介しました。

副理事長の座学は「ビデオ講義」で実施し、普段の練習を目的別に仕分けすることの大切さを解説。「個人のスキルアップのためなのか」「バン

ド全体で合わせるためなのか」「ライブの本番を想定したものなのか」という風に練習の目的を見直し、要点を明らかにすることで、限られた時間の中で取り組む練習の「中身」が明確になり、効率よくスキルアップできる旨を紹介しました。

昼食休憩を挟んで、午後は10バンドによるアンサンブルのクリニックです。1バンドの持ち時間は15分間。3密にならないように、これから演奏するバンドと次のバンドが音楽室に入り、残りの部員は控え場所で待機しました。各バンドがコピー曲を中心に演奏し、「とても素晴らしい演奏でした。フロントのメンバーがコーラスを担当しているので、仕方のない部分もありますが、『ライブ』という観点で見た場合、少し動きがなかったかな…という印象を受けました。コーラスをする際はマイクの前に立たないといけません、歌わない時はステージを前後に動いてみるなど、ぜひパフォーマンス面でも観客を魅了してください。メンバー全員で共有している楽曲のイメージや歌詞のメッセージを『動き』でも伝えられると、もっと良くなると思います」といった講評やアドバイスを送りました。なお、クリニックの様子は録画し、後日全員で内容を共有できるようにしました。

すべてのメニューが終わり、閉会式へと移行。今夏の愛知県大会や中部大会で再開することを約束して、閉会しました。

これからの軽音楽部はクリエイティブなことも懐深く取り込んでいくべき

【大阪府】大阪府立金剛高等学校 軽音楽部 顧問 早田和正



27年の長きに渡り、高等学校軽音楽部連盟大阪を率いてこられた早田先生が、今年度で連盟長を退任されます。連盟の運営委員や大阪城音楽堂で行われている全国大会の実行委員長は引き続き務められるということで、連盟のこれまでの歩みや、軽音楽部という部活動の未来についてお話を伺いました。インタビューさせていただいたのは3月末。開花が近い桜の蕾と共に、来年度への希望も膨らみます。

他校の顧問とつながりたかった

— まずは、連盟長27年間、お疲れ様でした。

▶ありがとうございます。1993年から準備を始めて、翌1994年の4月に高等学校軽音楽連盟大阪が発足しましたので、丸27年経ちました。まさかこんなに長く続くとは思っていませんでした。自分の性格からして途中で投げ出すと思ってましたし、面白半分みたいなところもありましたから。

— 全国的に見てもかなり早い動きですね。

▶大阪に軽音楽部の顧問なんて他にいないか？と思っていましたが、他の学校の顧問の先生方とつながりたかったんです。孤軍奮闘している感じだったので、どうやったら軽音楽部をまとめていけるのかとかを話せる知り合いが欲しくて。当時はインターネットもなかったので郵便を出して、13名の方と連絡が取れるようになりました。でも、仲間ができて音楽の話ができるようになって良かった…と満足していたらそこで終わっていたと思います。周りから「こんなことやってみたらどうか」とアドバイスをいただいたり、「会場を提供しますよ」といったありがたいお話をもらえたので、その流れに乗っかっているうちに辞めるタイミングもなく…。面白くなってきたということもありますが、いつの間にか20数年経ってました。

— 困難だったことってありましたか。

▶一番大変だったのは、最初にサポートしてくれていた音楽専門学校の体制が変わって、3年間借りていた会場を年間通して使えなくなってしまった時です。春の「Hight School Live」ができなくなって困りました。でもそこで、1つのチャンネルだけではなく複数持っておくことが大事なんだと学びました。それと、今後こういった不意の事態があっても、しばらくの間はしのげるように財政をしっかりとっておいた方が良さだな、ということに気がつきました。大変でしたが、あのままだったら連盟の主体性がなくなっていたかもしれないので、今は良いきっかけになったと思っています。

二重構造、外部交渉は一任

— それ以降は順風満帆にこられたんですか。

▶そんなことはないです！ 組織としては順調に進んできたように思う方もいらっしゃるかもしれませんが、私個人としては「舵取り」として順風満帆ではなかったですね。いろいろな学校や団体が様々な企画を持ち込んでこられたりするので、協力関係を始めては終わるって感じでした。皆さん理想を語っていただけるんですが、やはり私たちは学校教育の中で教育者としての立場で軽音楽部に関わっていますので、相容れない部分が出てきます。細かい問題をその都度処理し、それでもダメなら関係を解消する…といった舵取りはすごく大変でした。

— 連盟内部に困難なことはなかったのですか。

▶内部はなかったですね。特に、芸文連（大阪府高等学校芸術文化連盟）に部会ができるまでは、単なる任意団体でサークル活動みたいな吹けば飛び

ような存在だったので、いつでもやめられる感じてたし、無理なくできていたと思います。部会ができて以降も、入退会も自由ですし、加盟費も取ってないので、単に情報が欲しいから加盟しているという学校もあります。その中で、積極的にイベントに関わりたいという先生は運営委員になっていただく、という二重構造な感じでした。それに、外部との交渉が連盟長に一任されているってということも大きかったかもしれません。それは、私も楽なんです。1つひとつ運営委員会にお伺いをたてなくても良く、私の自由度が高かったの。それが大阪のやり方だったんですけれども、運営委員会はどちらかという意思決定機関というよりは、イベントを動かす実動部隊ですね。でも、登録だけしておいて欲しいという学校も大事な存在です。ちょうど、30年前の早田のように運営に困っている先生方の情報ツールとして機能している連盟でありたいですね。いろいろな使い方をさせていただければ良いと思います。

新しいことを始めるチャンス

— 連盟創設当時と考え方が変わったことは。

▶かつては大阪、関西のことぐらいしか頭にありませんでした。他県の連盟とのバランスや関係などを考えるようになったのは、ここ10年



▲コロナ禍がもたらしたニュー・ローマルの1つ。リモートでインタビュー

ぐらいでしょうか。ただ、大阪の顧問の先生方の活性化というか、なり手を増やすというか、音楽の経験がなくても生徒が頑張っているなら顧問になろうかと思ってくれた先生が、失望せずにやりがいがある部活動だなと思ってもらえるような場所を整備する、という意味では変わってませんね。私立と比べると、公立では長期的に部活動の成長計画を立てることが難しいですし、残念ながら現在の教育現場では部活動の実績はあまり評価されません。そんな中で、軽音楽部の顧問に生きがいを感じて一生懸命やってくれる先生は本当に貴重です。

ー 退任の時期はいつ決められましたか。

▶ 定年が令和元年度なので、そのタイミングで退任するつもりでした。再任用にはなっていたのですが、次の世代に譲るべきだと思ってました。軽音楽部は新しいもの、時代の鑑のようなものを扱う部活動なので、古い人間がいつまでも仕切っていると新しい感覚が出てこないだろうと。本当は、令和2年度に久谷先生（大阪府立桜塚高等学校軽音楽部顧問）に新連盟長に就任してもらうつもりだったのですが、コロナの影響で今までにない新しい問題が出てきてしまったので、その状況でバトンタッチはないだろうということで1年延びました。

ー 大変な1年でした。

▶ はい。でも、今年度は一昨年までやっていたことができなかったの、逆に新連盟長が何か新しいことをやれるチャンスではないかとも思いました。1年間のブランクがあることで、新しいアイデアに対しての違和感はありませんから。そういう意味でも連盟長の交代は今しかないなと思いました。ただ、大阪城でやっている全国大会は、連盟ではなく実行委員会方式で行っていて、あれは早田個人のイベントなので、やり切ったと思うまでやらせてもらいます、と言いました（笑）。連盟の方へは自分を戒めて、一切口出しせずに、新体制の妨げにならないようにしていくつもりです。

楽しいと思える範囲でやるべき

ー 全国の新しく軽音楽部の顧問になられる先生方にメッセージを。

▶ 無理をしないでください、と言いたいです。部活動は課外活動なので、やらなければいけないものではありません。ご自分の趣味と合ったり、生



▲新しい感覚に顔をしかめないことが軽音楽部の長い発展につながると語る早田先生

徒のために引き受けることにしたとしても、教科指導とかのことは全然違いますから、しんどくなったら一旦ストップしたら良いし、「仕事」になってストレスにならないように、ご家族のこと考えて、楽しいと思える範囲でやるべきだと思います。部活動の優先順位は後です。

ー 焦らないことが大切です。

▶ 例えば、まだ連盟がない県だからといって、必ず作らなければいけないものでもないし、ご近所の学校と発表会をしているだけで精一杯ならそこから先に進まなくても良いと思います。器だけ大きくして実体がないのもしんどいですし、気楽に着実に今できることを枯らさないようにとだけ考えてください。変に目標を決めなくても、続けていれば次のステップへの話ってくるものです

「オワコン」になるかの岐路

ー 今後の軽音楽部の発展について、どう考えていらっしゃるでしょうか。

▶ プロ・ミュージシャンが日本中どこからでも生まれるように、音楽を好きになる土壌は全国同じだと思うんです。地方によって学校に通っているうちにどれだけ音楽に触れられるかだけの違いです。「軽音楽部はこういうもの」と決めつけてしまうことが発展を妨げることに繋がります。例えば、昼休みに音楽を紹介する放送部も、良い音楽を広めたいという気持ちは一緒です。それに、映像を作ったりしていることもミュージック・ビデオを作るのと同じです。アニメ「けいおん！」が流行ったために、軽音楽部の形がバンドをすることだと固定化されちゃった気がします。でも、それはもうコロナで終わりです。密ですから。ある意味では良いきっかけだった

んじゃないでしょうか。今後は、映像を含め「音楽作品を作る」といったクリエイティブなことでも深く取り込んでいくべきだと思います。近い将来、軽音楽部の部員は誰も楽器を演奏せず、音楽理論を勉強してパソコンで音楽や映像を作って地域に配信…。そんな学校も出てくるでしょう。「軽音楽部」という名前は都合が良いんです。大ざっぱに解釈できるので音楽に関係することはなんでも取り入れられる。音楽が鳴っていれば全部軽音楽部です。放送部、ダンス部、インターネット・クラブなどを取り込んで、軽音楽部主導のもと新しい部活動になれば良いんです。実現には様々な問題はありますが、それが今の世代にとっての「音楽」なので、我々の方が軽音楽へのイメージを変えていかなくてはならないと思います。

ー ライブ・バンド部じゃダメってことですね。

▶ 楽器ができなきゃダメ、歌って踊ってが好きなら軽音楽部じゃない…って拒絶していたら、潜在的な需要を取り逃すことになります。むしろ、ライブ・バンド部を受け入れてもらえない学校は、「ミュージック・クリエイティブ部」に可能性を求めるべきだと思います。そのうちに、YouTubeを扱った部活動も出てくると思いますが、フォーク・ソング部を取り込めたように、それも軽音楽部は飲み込めます。かつては軽音楽部が一番新しく最先端だったわけですが、今は、10年後に軽音楽部が「オワコン」と呼ばれて学校の隅っこで活動するようになってしまいかの岐路に立っていると思います。

ー 革新的な意見ですが、同感です。

▶ 再任用で週3勤務なので、自由な時間が増えました。コロナが収まったら大好きなタイにロング・ステイしたいと思ってます。もしかしたら、10年後には軽音楽部の未来をタイからインターネットで眺めているかもしれませんね。

活発な活動が続いていくような 組織作りをしていきたい

【鹿児島県】鹿児島県高等学校文化連盟軽音楽専門部 委員長

鹿児島県立鹿屋高等学校 軽音楽部 顧問 守田佑一



ここ数十年で、全国各地に高等学校軽音楽連盟が設立され、多くの県で高文連の専門部が設置されるようになりました。現在でも、連盟の設立や専門部の設置を模索している県はありますが、有志の顧問を募り組織化する、校長先生に認可をもらうなど、どちらもハードルは決して低くはなく、一朝一夕にはいきません。そんな中、この度、鹿児島県に高文連専門部が設置されました。ご自分でも驚かれるほどの速さだったという、委員長の守田先生にその経緯をお聞きました。

加盟校は 19 校、概算人数は 200 人

— はじめまして。軽音協と申します。まずは、鹿児島県の現状を教えてください。

▶はい。高文連専門部の設置に向けて、いくつかの学校に声をかけまして…。デジレコ・ジュニア誌に掲載されて（冊子を送付して）いる鹿児島県の学校は、確か 14 校だったと思うんですが、そこには軽音楽部があることがわかったのでお声をかけました。結果、19 校が加盟することになり、生徒数は概算ですが 200 名ぐらいという状況です。専門部化されましたので、高文連の方からまた各学校に部活動の人数調査がいくと思いますので、そこに軽音楽専門部が載れば詳しい数字がわかってくると思います。

— 19 校ですか。盛り上がってきてますね。

▶現在把握している学校には、「軽音楽部」という名前ではないですが、実際にはバンドもやっているという学校があったので、他にもあるのではないかと考えていますが、調べきれていないのが現状です。また、高文連に加盟していない私立高校の中であと 2 校、軽音楽部があることがわかっています。ですので、21 校は確認できている、というのが数字としては正しいところでしょうか。

— 専門部設立に至る経緯を教えてください。

▶私は、今年（2020 年度）からこの鹿屋高校に勤務しているのですが、その前は軽音協さんが 5 年ほど前にいらしていただいた鹿屋女子高校に勤務していたんです。それまでは軽音楽部とは畑違いだったのですが、当時顧問をされていた谷川先生となんとなく「音楽は好きで…」といった話をしていました。谷川先生はその年でラスト・イヤーでしたので、僕が引き継ぐような形で顧問になりました。

教員間でネットワークが組めたら

— 鹿屋女子にいらしたんですね。懐かしい。

▶顧問になった 2019 年の 7 月の末に、福岡県の軽音楽連盟から「令和元年高等学校軽音楽祭 @九州」というイベントの第 1 回を開催するということで、お声がけいただいたんです。それで、鹿屋女子から 1 バンドを会場のある久留米市に連れて行きました。そこで福岡県の連盟や、宮崎県など他の自治体のバンド演奏を見ることができて、もっと鹿児島県も他の学校と横のつながりが持てたら良いなあ、と思ったのがきっかけですね。

— 鹿屋女子高校と鹿屋高校は近いんですか。

▶そうなんです。お隣さんです。地域のイベントなんかに一緒に参加していたので、鹿屋高校に軽音楽部があることは知っていました。まずは、その関係をもっと広げていきたいなと思っていて、それまでは良くも悪くも「井の中の蛙」な感じでしたので、ちょっと刺激も欲しいなっていうのもありました。それに、機材のことも、この学校には何が足りていないのか、グレード・アップするにしても何をどうしたら良いのか、などがまったくわからない中で調べながらやっていたので、情報共有というか、教員間でネットワークが組めたら良いなと思ってました。鹿屋高校の顧問の伊達先生とは、他の学校にも軽音楽部はあるんだろうけど、そんなことができたらいよいよ、というような話を半年くらいしていました。

総文祭は大きかったと思います

— その 2 校からスタートしたんですね。

▶はい。それで、昨年（2020 年）の 2 月に、地元のローカル・ラジオ局がやっている高校生フィーチャーの「てげてげ ハイスクール フェスティバル 2020」というイベントに出演することになったんです。そこには他にも参加している学校があって、やっぱり他校もこうして活



◀リモートですが初めてのご対面です。今後ともよろしくお願いいたします

動しているんだなと実感しました。連盟や専門部設立に向けて、自分には学校的な制度やシステムがわかっていなかったのも、福岡の連盟や全国高等学校軽音楽連盟の片桐先生などに相談させていただいたりしました。でも、初めはできるだけ動いておこうかとも思っていたのですが、自分はその年度で鹿屋女子を離れることがわかっていて、もし軽音楽部がない学校に転任になったら無責任だなと思っていたので、温めているって感じだったんです。でも、3月になって転任先が鹿屋高校だということがわかったので、伊達先生と鹿児島県高文連の事務局に問い合わせをしました。

ー そこからトントン、と専門部設置までいけたのは、やはり総文祭（第47回全国高等学校総合文化祭鹿児島大会 2023年開催）があるからでしょうか。

▶そうですね。ちょうど1年前くらいに事務局にお話を伺いに行ったのですが、総文祭が活発になるのであれば喜んで、といった状況ではあったと思います。他県さんがご苦労されているという話を聞いていたので不安だったのですが、すごく好意的に動いていただいて、総文祭がなくても認可してくれたんじゃないかな、くらい寛容でした。会長の先生にもその日のうちに話を通して下さって、帰っている途中でもう連絡があり、「具体的に資料を作りませんか」「5月の理事会に設立申請書を出しましょう」と言っていただきました。結局は、コロナ禍で書面決議になってしまうということで審議保留となり、今年の2月の理事会で改めて申請が許可される形になりました。

ー すごくですね。普通は3年くらいかかると思うんですが。

▶やはり、総文祭は大きかったと思います。申請中の段階で、高文連や県教委から発足する前提で総文祭にむけた話をされていましたから、これ幸いにと進めていきました。本当にありがたいことです。

ラッキーすぎて気持ちが悪いくらい

ー 失礼ながら、鹿児島県の総文祭には軽音楽は難しいなと思っていました。

▶逆に、スタート・ダッシュしてしまったので、先生方との横のつながりがまだできていない状態です。コロナ禍で集まれなかった、というの



▲全国で13番目の高文連専門部設立となり、今後の鹿児島県の活躍が期待されます

もあるんですが…。新年度が始まったら、皆さんで集まろうと計画しています。申請時の役員は必要最低限だったので、今年度の役員の割り振りをしなければいけないのが現状です。現在、軽音楽部の顧問をされている方だけでなく、以前、軽音楽部の顧問をされていた先生からも一緒にやっていきたいと言っていただけであり、今その割り振りをしている状況です。専門部会長も、鹿屋高校の橋口校長が快く引き受けてくださいました。何というか、ラッキーすぎて気持ちが悪いくらいです（笑）。私はこの業界が長くないので、怖いもの知らずでやれちゃったっていうのもあると思います。

ー 新年度の活動予定は。

▶それも途中といえば途中なんですけど、映像審査会のようなものは専門部が発足してもしなくてもやろうと思っていました。あと、今年の和歌山県の総文祭から声をかけていただいていた、代表選考のための映像審査がちょうど終わって結果発表をしたところです。21バンドがエントリーしてくれました。その他、リアルなイベントも徐々に増やしたいと思っています。年末にかけて、次の東京総文祭への選考イベントができれば良いかと計画しているところです。

いろいろと計画は練っています

ー 普段はどんな指導をされているのですか。

▶私自身は野球部だったので、鹿屋女子の時は特に、それこそチューニングだなんてことわわからなくて、「何となくそれ気持ち悪いよ」

みたいな感じでした。前任の谷川先生に定期演奏会の時などに来てもらって、いろいろ聞いていました。なので、技術指導は具体的なことはせず、自分なりに調べながら、生徒と一緒に「こんな動画見つけたんだけど」というレベルでした。今の鹿屋高校では、伊達先生が部の運営はメインでやられているので、逆に、自分は専門部設置のことに集中できました。それも、大きかったかもしれません。

ー 今後の課題は何かありますか。

▶現状では、顧問の異動があると、盛り上がっていた部活動が廃れていってしまう…という事例が多いと思うんです。特に公立はそれが多くなってしまうので、活発な活動が続いていくような組織作りをしていきたいと思っています。総文祭に関しても、まだ自分がこんなのだらうとか言っている段階で何も決まっていないので、今後の課題ですね。この鹿屋が自分の地元なので、ここでできたら良いなとは何となく思っています。コロナがどうなっていくかはわかりませんが、どっちにしろブレ大会までには、リアル大会を開いておかないと怖いっていうがあるので、まだ僕の皮算用ですが、いろいろと計画は練っています。サポートしていただいている周りの皆様のご協力に感謝しながら、前へ進んでいきたいと思っています。

ー 軽音協もいろいろサポートさせていただきますので、今後ともよろしくお願いします。

▶こちらこそよろしくお願いします。学校が一同に会するような時とかに、何か一発お願いできたら嬉しいです。

CONTRIBUTE

9つの疑問に答える

【埼玉県】埼玉県立大宮南高等学校 教諭 中島信幸



1 コロナ禍でのモチベーションの保ち方

私は蔵高校で3年間軽音楽部の顧問を務めたが、それ以前（三郷北高校）は野球部顧問であり、軽音楽部顧問を辞めた後はバドミントン部顧問、現在（大宮南高校）は女子バレエ部顧問である。また、音楽の経験は人生で一度もなく、専門はアイスホッケーである。以下の文章は、それをふまえてお読みいただくと幸いである。

モチベーションの保ち方としては、3年生と1、2年生で指導のやり方を変えた。まず3年生については「ほぼゼロに近い活動再開の可能性に賭けるか、早々に見切りをつけて次の進路に向けた準備をするか」葛藤しているだろうと考え、それに対する自己決定を支援することを第一とした。

その際まず必要なのは、顧問自らがどのようにして部活動を運営していくかを明確にすることである。「コロナ禍で多大な活動制限を強いられるが、少なくとも俺はこうやっていくつもりだ。それをふまえて考えてくれ」という具合である。しかし、コロナ禍でこの先何が起るかわからず、圧倒的に将来の方向性についての判断材料が不足している中、どれほど運営ビジョンを明確に説明したとしても、その意味や意義を生徒が適切に評価・理解し、決定することは難しい。従って、顧問が繰り返し生徒の疑問に答え、理解を促進させると同時に、最後まで部活動を続けた場合と見切りをつけた場合とで、生徒の日常生活やその後の人生にどういう影響を与えるかなど、それぞれの選択肢の評価について生徒と協議し、時間をかけて自己決定を支援する

必要がある。医学の世界ではこれを「共同決定」というが、まさにこの共同決定が大事である。

生徒の人生の主人公は生徒本人なのだから、決定の主体はもちろん生徒である。しかし、その決定を顧問が一貫して支援し、協力する体制がないと、顧問は活動方針を一通り説明して責任を果たしたつもりになり、あとは生徒に決定を丸投げすることにもなりかねない。それでは生徒と顧問の協働体制は形骸化してしまう。生徒の自己決定権を尊重・保障し、一貫して支援するためにも、私はこの共同決定のプロセスを最も重んじた。

私の出した方針は「このまま練習も大会もできないまま終わる可能性は高い。しかし、一番大事なことは、これまでお世話になった部活動と確かな形でお別れをすることだ。俺たちはコロナによって終わらせられるのではない。自分の最後は自分で決める。それがアスリートとして残された数少ない誇りの1つだ。具体的には、

自分の足でコートに入り、自分の足でコートから降りる。君たちはまだ若いから、人生の大半が出逢いと希望に満ちているが、やがて年を重ねれば別ればかりになっていく。ならば今、せめて正しい、悔いのないお別れの仕方を教え、その舞台を整えることが、顧問である私の役割だと思っている」である。その具体的な方法として「バドミントンはいつでもできるが、高校バドミントンは今しかできない。だから君たちの最後の花道は必ず俺が作ってやる。大会がなければ俺が作る。野球部で最後の大会メンバーに選ばれなかった部員たちのために行われる「引退試合」と同じ方式で、理念に共感してくれる他校の先生と1試合だけ行う。練習再開の許可が下りさえすれば、万全の感染防止対策を整えた上でやれる。高校バドミントンの灯を消さないためにも、どうか俺と覚悟を同じくしてくれないか」と、「中島カップ」の開催を3年生に示した。結局、何人かの生徒は見切りをつけるこ



とを選んだが、大半の生徒が最後までやる決断をしてくれた。さらに、中島カップ開催にあたり、理念に共感してくれる先生は多くいらっしゃったが、相手校管理職の決済（遠征許可）が下りず、1、2年生との紅白戦形式で行った。以上の文章について、バドミントンを軽音楽に、コートステージに言い換えてもらえれば、軽音楽の世界にも当てはまることになると思う。

1、2年については、「戦わずして無念の引退を強いられた先輩の思いを受け継いで、今以上に素晴らしい部活動を作り上げよう」という指導が基本になる。ただ、コロナ禍にかこつけて「新しい生活様式」という言葉を曲解し、「趣味程度にたしなむのが本来の部活動の姿だ。プロを目指すわけではないのだから、『全国大会出場』などと身の丈に合わない目標を掲げたり、そのために誰よりも厳しい環境に身を置かせよう」としたりするのはおかしい」という生徒・保護者は少なからず現れる。私は「今しかできないことに全力を尽くせない者が、これから先社会に出て何事にも努力できる人間にはなれない」という考えなので、先に挙げたような考え方を尊重したくはないのだが、私のような考えを持つ人間はもう絶滅危惧種になってしまったのではないかと考えている。教員の働き方改革が叫ばれ、部活動に関するガイドラインが整備されていく中、公立高校で部活動の指導に情熱的な先生は目に見えて少なくなっている。「何事も全力でやりたければ私立へ行くように。公立はそういうところではない」生徒の中にも教員の中にも、そんな雰囲気が出来上がりつつあるように感じる。高校野球の世界でも「5年後、公立が甲子園に出場することはできなくなるだろう。公立の野球部で活躍されていた指導者がごとごと定年を迎えるが、その後に続く者がいない」と言われているが、高校野球に限らず、教育現場全体がそうになってきているように思えてならない。

まして軽音楽部は、平時であっても「活動に真剣さが感じられない。このような活動でどのような教育的効果があるのか。機材費と称して多額の生徒会費を要求してくるが、そこまでして活動させる価値があるのか」「ただの放課後の娯楽。学校を無料スタジオとして使いたいだけ」と批判される上、後に続く者どころか、そもそも指導者すらほとんどいない。にもかかわらず、コロナ禍に乗じて先に挙げたような考え方に染まってしまうと、いよいよ存在の是非が問われるどころか、「教育としてやらせるにふさわしくない」との烙印を押される危険性は高くなる（仮に存続したとしても、ほとんど生徒任せにして顧問が積極的に関わる必要がないので、教員の



負担が少なく済み、楽だからという発想だろう。教員はそれで良いかもしれないが、生徒は不幸である。それを未然に防ぐためにも、部活動単位で生徒たちに確かな目標設定をさせることはもちろん、目指す目標としての大会の在り方についても、例えば審査基準など、しっかりとしたものになければならないだろう。

2 部員同士の いさかいの収め方

部員間のトラブルは、大抵活動に対する温度差から起こる。基本的に部活動は全力でやろうとする者のためにあるので、個人的にはそこまでの覚悟がないのなら退部してもらって結構だ、と考えている。

しかし、前述の通り、コロナ禍に乗じた曲解によって「プロを目指すわけではないのだから、全力でやる環境など間違っている」という考え方が幅を利かせつつあるようにも感じる。場合によっては、保護者と一緒になって管理職や教育委員会にクレームを入れて、全力でやろうとする部員を辞めさせることで自分たちの居場所をつくろうとする者もいる。まかり間違えば顧問を辞めさせようという動きにまで発展してしまう。教員にも守らなければいけない家族がいるわけだから、そこまでのリスクを背負ってまで教育ビジョンを貫くかと言われたら、すぐには決断できないだろう。結局「ならば何もしない方がマシ」となってしまう、ますます部活動は縮小される。まして軽音楽部は部員の生徒指導案件が発生しやすく（夜遅い活動、高額な楽

器代やスタジオ代を賄うための無断アルバイト、バンドマンの意味をはき違えた整容違反など）、放っておけば簡単に部員が100人を越えてしまうのだから、より顧問のなり手は減っていく。

私はバドミントン部で温度差を基準にした1軍・2軍制度を導入し、練習日すら別にして、完全にお互いを関わらせないようにした。基本的に温度差＝実力差なので、どうしても1軍は実践練習中心、2軍は基礎練習中心となる。また体育館のスペースが限られており、1軍と2軍を同時に練習させることはできず、できたとしても中身のある練習をさせることは難しい。さらに、部活動ガイドラインの厳密適用を求められた時に「1軍の日は2軍が休み、2軍の日は1軍が休みと完全に分けていますので、ガイドラインを越えた活動はしていません」と答えることができる。

しかし、このやり方は所詮自分の保身であり、全力でやりたい生徒の情熱に応えられるものではない。これについては、逆に私が多くの先生方からご意見を賜りたい。

3 脱落しそうな 部員の支え方

ここでは「脱落＝退部」と解釈する。運動部の場合「練習が辛くて辞めそう」か「このままやってもレギュラーになれる見込みは低いので、向いていないことを自覚した上で次の進路に向けた準備をしたい」ケースが大半である。もし軽音楽部においてこの2つのケースが発生したなら、私はとても理想的だと思う。なぜなら、

好きなことで全力を尽くしていること、好きなことで妥協していないことの裏返しだからである。むしろ生徒たちには、好きなことで悩み苦しんでいる自分自身に大いに誇りを持ってもらいたい。仮に自分に限界を感じつつあったとしても「バンドはいつでもできるが、高校バンドは今しかできない」わけで、どんなに実力の違いがあったとしても引退の時は平等にやってくるのだから、レギュラーになることだけでなく、高校バンドの世界から得られるものを存分に得て、社会に通用する大人として成長して欲しいと思う。

私が軽音楽部顧問をしていて直面したのは「楽しくやりたいだけなのに、中島先生の下ではそれができない」「学業と両立できない」「お金がかかりすぎて続けられない」の3つである。前の2つは私にとって論外である。ただ楽しくやるだけの趣味的活動や、高校生の本分を果たせないことを部活動のせいにするような人間性に付き合うつもりはないし、教育活動である以上、生徒を成長させる義務と使命を負っているのだから、それを願う保護者や県民の負託に応えられないことを行うつもりは一切ない。

問題は3つ目である。私が顧問をしていた時の蕨高校は、相次ぐ不祥事により校内での活動は一切禁止されていたため、生徒たちは頻繁にスタジオを借りて練習せざるを得なかった背景がある（現在は解消）。他にも、夏期・冬期・春期の校外合宿（校内での活動ができなかったこともあり、年に3回も行っていた）、合同ライブ（練習試合）の交通費（頻繁に埼玉から東京・神奈川に行っていたので、かなりの額になる）、レコーディング代（茨城のスタジオで行っていた。当然1日では終わらず、交通費・ミキシング・マスタリング代に加えて宿泊費もかかる）と、下手な運動部よりもお金はかかっていた。「やれる範囲で大丈夫」とは言っても、生徒は自分の経済事情が他のバンドメンバーに迷惑をかけることを負い目に感じてしまい、結局誰一人として最後まで続けた者はいなかった。

野球部の場合、ほぼ全員が経験者で、それまで多額の費用がかかり、これからもそうだとすることを生徒も保護者もわかっているのに、経済的理由による退部はあまりない（が、ゼロではない）。バドミントン部では、シャトル代だけで野球部・軽音楽部とは比べ物にならないほどの費用が発生するため、経済的理由による退部は多く発生してしまった。したがって、安易なゲーム練習を減らす、外部体育館（他部との割り当ての都合上、校内体育館を毎日使用できるわけではない）を借りる機会を減らしてトレー

ニングメニューを充実させるなど、なるべく費用負担を少なくする活動を心掛けた。

4 創作活動の指導の仕方

私は創作活動の指導など必要ないと思っている。高校生の豊かな感性によって作られたオリジナル曲には、どんなにクオリティーが低そうに聴こえても、世の中に出回っているプロの曲にはない、高校生にしか出せない魅力がある。その豊かな感性を、我々大人の枯渇した感性によってダメにすることはないだろう。確かに指導はできるが、高校生は良くも悪くも素直なので、結局顧問の指導に染まってしまう、顧問のカラーに基づいた曲しか作れない、というのは、本当の意味で「創作をさせた」ことにはならないと思う。

せいぜい私が行ったことは、循環コードに合うフレーズを考えさせてセッションさせることくらいである。例えばA⇒B⇒D⇒Aの循環コードをベースとして、それに合うフレーズを自分で考えさせて、全体で演奏させる、という具合である（参考材料として4 non blondesの代表曲の1つである「What's up」を聴かせる。この曲はA⇒B⇒D⇒Aの循環コードだけで作られている）。最近では、特に初心者の生徒ほど楽譜ばかり見て原曲を聴かず、曲が身体に染みついているので、結果楽譜通りに音を並べただけで自分なりの曲の解釈もない無個性なステージになってしまう。また経験者であっても、自分の好きなジャンルしか聴いておらず、結果何度作らせても似たようなフレーズしかできず、音楽性の偏った独りよがりなステージになってしまう。私の中学時代、ギター部の生徒たちは「テープが擦り切れるまで聴いてるのか」「レコードが割れるまで聴いてるのか」と毎日のように顧問に怒られていたが（私は中学時代野球部）、作曲の仕方以前の問題として、聴き込むことを当たり前にする必要があるのではないかなと思う。

どこまで本当かはわからないが、上記のことはアメリカの高校の音楽の授業で普通に行われているそうである（つまり、どんなにバンドに興味のない人間でも、これができないと単位がもらえない）。もしこれが本当なら、日本のバンドが世界で通用しないのもむべなるかなと思う。日本なら軽音楽部に入らなければならないことが、向こうではどんなに音楽に興味がない人間

でもできるわけなのだから。

5 顧問に楽器やバンドの経験は必要か？

私には楽器の経験も、音楽に関わった経験もない。楽器・バンドの経験はあるに越したことはないと思うが、なければいけないものではない。アイスホッケーだろうが野球だろうがバドミントンだろうが軽音楽であろうが、100教えなければならないことがあったとして、技術的なことは10にも満たず、残りはすべて挨拶・礼儀といった、人間として成長するために必要なことだからである。

蕨高校軽音楽部顧問をしていた時、2年生部員が新入生に向かって「安易に先輩に教えを乞う前に教則本を読み尽くせ」と怒ったことがあったが、技術指導については正直それで良いと思う。外部指導者を呼ぶのも1つの手段ではあるが、謝礼がかさむ上に「いかにもバンドマン」な風貌でとてもじゃないが教育者として学校に呼べないような身なりの人間ばかりなので、生徒への悪い影響を考えると、あまり頼りたくない。批判を承知で言えば「やっぱり軽音楽をやってきた人間は、こういう奴しかいないんだな」と思わざるをえない人間ばかりである。また、プロとして活躍しているなら、自分の仕事で忙しすぎてわざわざ指導に来る余裕もないはずで、本業で稼げないから、高校生の指導「でも」して（あるいは、高校生の指導「しか」できない）食い扶持にしようという魂胆なのではないかと思えないような人間もおり、私は年1回程度しかお願いしなかった。また、OBにコーチをさせることにも私は消極的である。もう高校を卒業したのだから、いつまでも高校に縛り付けずに新たなフィールドで活躍させてあげたいと思う。

少なくとも私は、自分が責任を持って成長する義務を負った生徒を、安易に外部に委託したくない。教員免許も持たず、指導者としての訓練も受けていない人間に任せたとこで、荒らされるだけである。どんな形であれ、生徒の指導に関わるということには重大な責任が生ずる。指導に携わる者は、教育心理学、発達心理学、リーダー学、ビジネス学を学ぶべきである。これがない人間は、指導が場当たり的で要領を得ず、指導の一貫性ではなくその時の感情に合うか合わないかで生徒をなじり、練習でやっていないことを本番で要求し、あげくの果てには手を上

料としている。

7 練習の仕方の事例発表

懸念があるとすればボーカル練習になるだろうが、ボーカル練習だけなら合唱部のように校舎外（例えば校庭・中庭）でもできるわけだから別段不自由ではないだろう。アンサンブル練習については、ボーカルを歌わせずあらかじめスマートフォンなどで録音しておき、セッションミキサーに流せばそれで済む（あるいはその逆もあり）。

あるいは、DTM を突き詰めようとする部員もいるだろう。つまり、ただ楽器の練習をするだけなら、大した工夫は必要ない。

しかし、それは果たして部活動と言えるものなのだろうか。上記のような内容だけで良ければ、別に部活動でなくとも、個人が趣味でやろうと思えばできることである。部活動である以上、練習する環境さえ整えられればそれでOK

野球は外競技かつ身体的接触のほとんどないスポーツなので、コロナ禍においてもそこまでの制限は受けないだろう。バドミントンも体育館の窓を全開にして練習せざるをえないわけだが、意外にもそこまでシャトルが風に流されることはなかったので、そこまでの不自由は感じなかった。アイスホッケーは、興行場法に基づいて換気設備が作られているので、やはり不自由は感じなかった。

もし私が軽音楽部の顧問なら、セッションミキサーを用いたアンサンブル練習（もちろんボーカルは歌わせない）と作曲活動以外は一切校内でさせない。密を避けるということもあるが、それまで「当たり前」にあった環境への感謝を学ばせるためでもある。その上で「このような逆境だからこそ、練習環境を整えろと文句を並べるのではなく、今まで以上に挨拶・礼儀を尽くし、軽音楽部の味方を増やせ。不自由を強いられても決して腐らず、人間として成長しようとする姿を見せろ」と指導する。

振り返れば、コロナ禍の2020年2月29日にライブを強行したプロのバンドがあったが、あれは個人的に高校軽音楽にとって最悪の行動だったと思っている。「軽音楽の人間は、コロナ禍でも自分の利益しか考えない。だから教育活動に軽音楽は不要だ」というイメージが蔓延させ、不必要な活動制限を強いられる結果にならなかったからである。あの件で、私は生徒たちにまず社会性を教えなければと改めて思った。自分の正当性ばかり主張するのではなく、周囲との妥協点をしっかりと探りながら、ベストな選択肢を模索するということである。

あの件以降、もし私が軽音楽の顧問だったら、教員の誰もが上記のようなネガティブ・イメージを持っているという前提で指導計画を立てる。その上で、ネガティブ・イメージを跳ね返し、軽音楽を通して社会に通用する人間を育成するための具体的指導として、前述のようなことが考えられると思う。

アイスホッケーは初心者だろうがプロであるうが、スケートリンクの貸切練習時間は平等に1時間半である。さらに、1時間半で5万円を越える利用料がかかる。従って、1時間半を存分に生かし、かつ高額な費用を無駄にしないためにも、練習内容は事前に存分に練り上げるし、休憩もほとんど取らずに次から次へと矢継ぎ早にドリルをこなしていく。

このような環境が当たり前だった私は「時短だから不自由を強いられる」という考え方にはならない。むしろ「今までの練習がどれだけ集中していなかったか、どれだけ時間の無駄があったか、改めてわかっただろう？」と、指導の材



8 大会で予選落ちして しまった後の取り組み

剣道の世界には「勝って反省、負けて感謝」という言葉があるが、軽音楽に最も足りないのはこの姿勢であると思う。勝てばつけあがるし、負ければ平気で審査員に文句を言ったり、他のバンドの演奏を蔑んだりする。まず「結果を素直に受け止め、反省・感謝ができる」人間になれるよう指導し、その上で、今までの自分たちに何が足りなかったのかを考えさせる必要があるだろう。

9 大人数校、少人数校 の部活動

部員が100人を越える野球部は珍しくないが、試合に出られるのは9人だけ、大会メンバーに選ばれるのも20人だけである。大半の人間は公式試合に出られず、場合によっては3年間一度も練習試合に出場させてもらえないどころか、まともに練習にも参加させてもらえず、球拾いとグラウンド整備だけで終わってしまう部員もいる。そうすると、自分の可能性の限界を早々に悟った部員が、後輩のレギュラー部員をいじめたり、レギュラーメンバーの練習の邪魔をしたりするなど、悪い方向に自分の存在意義を求めてしまうようになってしまう。

野球部に限らず、部員の不満はほぼ確実に「試合に出られない」ことから発生する。とはいえ、

レギュラーになる実力のない者を温情で試合に出すわけにもいかないので（日頃の練習態度が模範的であるなど、部員全員を納得させる理由がある場合を除く）、トップチーム以外にBチーム、Cチームと分けて、カテゴリーごとに育成目的で試合を組むことで（いわゆるBチーム戦）、試合勘を鈍らせないと同時に「いつかはAに上がるんだ」というモチベーションを保たせることができる。それ以外にも、ボール係、バット係、ネット係、マシン係など、チーム全体が機能するための様々な役割を与え、そこに責任を持たせることで、「たとえ試合に出られなくても、別の形でチームに貢献できる」という意識を持たせることができる。私が驚いたのは「1ミリ班」という役割を設けていた野球部があったことである。これは、試合会場などで部員達のカバンを1ミリたりともずらす綺麗に並べる役割のことであり、「カバンの並べ方1つ見れば、その

チームの実力はわかってと言われますから」と、一見地味に見える役割に誇りを持つ部員に大いに驚かされた記憶がある。

少人数の部活動は、練習に参加できない部員が出ることもなく、たくさんプレイすることができるので、成長スピードは速い。顧問も少ない人数に時間をかけて指導できるので、生徒指導などの問題も発生しにくい。しかし、終わったと思ったらすぐに自分の出番が回ってきてしまい、じっくりと自分のプレイを振り返る余裕のないままフィーリングだけで練習を行ってしまったり、少人数なので準備・片付けに多大な時間を要して効率的な練習ができないなど、少人数ならではの問題も発生する。また、前述の通り部員を休ませる機会を確保しづらくなるので、ケガ人も発生しやすくなる。

軽音楽についても、同じように考えることができるのではないかな。



CONTRIBUTE

軽音楽部の顧問の先生にご寄稿いただいた、自校の取り組みや活動理念、事例発表などを紹介します。記事の投稿やインタビューに関して、ご協力いただける先生は info@keionkyo.org までご連絡ください。

間違いなく高校は 人生の中で最も重要な時間

SUGIZO LUNA SEA 軽音楽部員に語る60分

来年5月で結成25周年を迎える伝説的ロックバンド、LUNA SEA。13年5ヶ月ぶりとなるファン待望の新作『A WILL』を発表し、アルバムリリースに伴うコンサートも予定されているなど、その活動は衰えるところを知りません。そんなLUNA SEAのギタリスト／ヴァイオリニスト／コンポーザーであるSUGIZO氏は音楽活動と平行しながら、環境問題や社会問題にも積極的に取り組んでおり、関連するイベントにも多数出演されています。そこで、今回は本誌創刊にあたって自身の高校時代を語っていただくと共に、軽音楽部員の学生たちへのメッセージをはじめ、現代の若者を取り巻く様々な問題や高校時代にしておくべきことなどについて伺いました。(取材：本誌編集長 三谷佳之)

(2013/12/DiGiRECO.JR 創刊号に掲載)

— まずはじめに、高校時代のSUGIZOさんはどんな学生だったんですか

SUGIZO (以下、S)：僕が高校1年の頃というところから28年前のことです。音楽自体は子供の頃からやっていた、中学生になっていわゆる「ロック」に目覚め、ギターやベースを手にし…という感じで、初めてロックバンドを組んで演奏したのは高校1年の時です。結局、それが今の自分の生業になっています。

僕にとって「高校」というのは、間違いなく人生の中で最も重要な時間だったと思います。これは人それぞれですが、小学校の友達が一番大切な人もいれば、中学校の友達が大切な人もいます。僕には今でも交流が続いている小学校や中学校時代の友達というのはほとんどいなくて、僕にとって人生の「開花」は高校からだったんです。そこで僕が生涯の友人と出会い、そして、ロックバンドに出会ったというのは運命としか言いようがないです。今はそのタイミングにとっても感謝しています。僕が高校1年の頃、学校にはピアスをしていたり、金髪や大きなリーゼント頭のおっかない先輩がいたんです。でも、ギターがうまかったり、バンドで演奏している姿がすごくカッコ良くて…。「あの先輩、怖いな～」と言いつつも、憧れていた部分もありました。

— 高校時代は一番、多感な時期かもしれませんね

S：そうだと思います。実は、僕は高校1年の半分くらいまで、自分の「夢」に対してとても悩んでいました。今にして思うと単純なんですけど、本当に「音楽」がやりたかったんです。でも、どこかで「そんなの無理に決まってるじゃん」と思っていた部分もあって…。大人に相談しても否定されますし、周りの空気もそんな感じで、僕自身も「本当は音楽をやりたいけど、簡単なことではないし、現実的にちゃんと自分の道を見出さなきゃ…」と思うことがありました。そういうモヤモヤとした状態が高校1年の2学期の後半くらいまで続いていたんです。でも、「自分は何をやりたいのか。何になりたいのか」ということは、心の底では知っていた…。やはり「音楽」に身を捧げて生きていきたくったんですよね。

— そこで、高校1年のSUGIZOくんはどうしたんですか

S：子供たちというのは、自分が本当に求めているものをちゃんとキャッチして、「そうだな！」という確信に昇華することにエネルギーを使うと思います。でも、「そんなの無理に決まっているじゃないか！」というような邪念がどこかで入るんです。だから、僕も高校1年の途中まではあれこれ悩んで夜遊びをしたり…というようなことをしていました。いつも心の中では「やりたいこと」が見えているのに、「それに対して明確な確信が持てずに虚しい…」というような日々が続いていたんですが、ある時に意を決して「俺はこれがやりたいんだ！」と自分で認識してみたんです。「俺はこれがやりたいし、やるべきなんだ！ このために生きるんだ！」と、自分で認識した途端に生き方が変わりました。やるべきことや「自分はどう行動したら良いのか？」という目標が見え、「何をどうすれば知識や技能を習得できて、道を切り開いて上へ行けるか？」ということがバツと明確になり、それに向けて自然と歩み始めていたんです。ちょうど高校1年の後半くらいの時期ですね。

— エレキ・ギターを手にしたのもその頃なんですか

S：実は、エレキ・ギターをちゃんと弾き始めたのは高校2年生になってからなんです。バンド自体は高校1年で始めたんですが、僕は最初はベーシストでした。意外に思われるかもしれませんが、昔はスティッキングのようなベース／ボーカルになりたかったんです。そうやってはじめはベースを弾いていたんですが、まだどこか心の中がモヤモヤしていたんです。「やりたかったのはこれなんだけど、まだ核心には触れていない…。この感覚は何なんだ？」と。まだ最後の「決め手」に到達できていないような感覚で…。そして、ふと思い出したんです。僕が

子供の頃からなりたかったもの…。それは「作曲家」だったんですよね。僕は自分で音楽を作って、「無」から「生」を生み出したかったんです。コピーしたり、ロックスターに憧れたり…ということではなく、僕は作曲をしたかった。そして、「ベースじゃ作曲には適していないよな…」ということで、ギターにスイッチしました。それが高校2年の頭…17歳になる手前くらいですね。つまり、僕の場合は「音楽を続けていきたい。一生、音楽で生きていきたい」と決意したのが第1段階で、第2段階で「ギタリストとして、作曲家としてやっていくんだ！」という最終的な着地点…人生のルールが出来上がったんです。

高校生のみんなに言いたいのは「自分の人生を生きているのは自分なんだ」ということ。親や友達、先生ではないんです。アドバイスを聞いたり、エッセンスを受け取るのは良いと思いますが、最終的な決断、覚悟は自分で決めなくてははいけません。自分の人生は自分しか生きてくれないんです。

一 でも、それは16歳や17歳の若者には難しいですよ

S：実はちょうど先週、宮崎大学の文化教育学部附属中学校というところで演奏してきました。その土地出身の、友人のバレエダンサーの芸術鑑賞会にゲストとして参加したんですが、とても良い経験になりました。彼のダンスと僕のヴァイオリンで、10分くらいの即興をやったんです。生徒たちはすごく喜んでくれていました。教育の中に音楽を入れるのは大切なことだし、生徒たちは本当に純粋なんですよ。大切なことを教えてあげると、ちゃんと響くんです。終演後に「みんな、写真を撮ろう！」と言ったら、「ウオ～！」と盛り上がって…。みんなそういう子たちで、とても真っすぐなんですよ。

また、その時に「君たちは何でもできるし、何にでもなれるんだよ。可能性は無限大だから何でもやりな」と伝えたんですね。普段から「あなたはこうやりなさい。これはしてはいけません」というような感じで言われ続けているので、みんなが僕の言葉に喜んでくれたのが印象的でした。子供たちの可能性というのは無限なので、「自分は何でもできる」「何にでもなれる」ということを10代でいううちに知っておくべきです。どんなことでもできますよ。

一 例えば、成績が伸び悩んでいる子はどのように捉えれば良いのでしょうか

S：本当に成績が良くなりたいのなら、既にちゃんとやっていると思います。例えば、成績があまり良くない人が「実は学年トップになりたいんです！」「一流の大学に入りたいんです！」と本気で思っていれば、成績が悪くなる前に、そのための動きをとくにしています。「なりたいたいものに何でもなれるし、自分の夢はすべて叶うよ」と僕が言っていることには「続き」があって、そのためには尋常じゃないくらいの「努力」が必要なんです。努力して、鍛錬して、身に付ける「時間」が高校生にはあるんですよ。

もし自分がトップ・ギタリストになりたかったら、高校生のうちに他の人の10倍練習をすれば良いんです。それが30歳になってからでは、不可能ではないかもしれませんが、なかなか難しいと思います。高校生の時に「俺は絶対にボクシングの世界チャンピオンになるんだ！」と本気で思っていれば、十分に可能性はありますよね。でも、それが30歳を過ぎていたら、かなり難し

いと同じことなんです。つまり、高校時代というのは自分のなりたいたいものに何にでもなれる可能性のある時期なんです。自分の夢を叶えるということは自分がすべての責任を負わなければいけません。親や先生が負ってくれるものではないんです。その覚悟と決心が必要です。

また、高校生になれば活動エリアはだいぶ広がるんですが、まだ中学生のうちは「学校」が自分の世界のすべてだったりするんですよ。「クラス」や「担任の先生」「親」が自分の世界のすべてで、それらがうまく機能しないと絶望しちゃいますよね。それは「井の中の蛙」のようなものなので、僕は「ちょっと待ちな…。今はたまたまそういう気がするかもしれないけど、あと1年や2年経てば、活動エリアが広がっていくよ。中学生の時は学校がすべてだった俺も範囲が次第に大きくなって、今では世界中だよ？」という話をしています。生きていれば世界はどんどん広がっていくので、自分の周りにある現状の世界…自分を構築している世界の中だけで「答え」を出す必要はないんです。

一 今の高校生を取り巻く社会環境は昔とは随分変わってきています。いろいろなものが出てきており、様々な誘惑がありますよね

S：一番大切、かつ一番気を付けなくてははいけないのは、僕らが10代の時とは違って、現在は世の中のほとんど

なりたいたいものになれるし、夢はすべて叶うよ。そのためには尋常じゃないくらいの努力が必要だけどね

の情報が一瞬で手に入ってしまうことではないでしょうか。情報に溢れていて、何を核として見出して良いのかわかりづらくなっている。とはいえ、この現実を今から昔に引き戻すことは無理なので、僕らが高校生の時と今の高校生では、感覚がまったく違うということを認識しなくてははいけません。

一 現代はモノで溢れていて、本物があれば偽物もある、まさに玉石混交の時代だと思います。また、昔は「大人は偉くて、怖い存在」とされていましたが、その大人が不祥事を起こしたり、犯罪に手を染めるなど、無茶苦茶なことをしています。そういった世界にいる高校生たちに、SUGIZOさんはどういったアドバイスをされますか

S：間違いないと言えるのは、「自分の一番好きなことをやるべき」ということです。「自分はこのが好きだ！」というものをまずは見つけることではないでしょうか。また、自分だけが「気持ち良い」「楽しい」「嬉しい」というだけでは、実は本当の幸せにはなれないということを今の若い人たちはみんな知っていると思います。それに、特に親から教わらなくてもみんなでもノを分け合いますよね。子供の頃、食べ物があったらみんなで分け合ったじゃないですか。つまり、「自分だけが気持ち良い」「自分だけが得をしよう」「自分だけが良い思いをしよう」というような感覚は、実はもう必要がないのです。残念ながら、僕らが若い頃にはそういった感覚があったんですよ。「自分が気持ち良いのと、社会が気持ち良いのは同義語なんだ」ということをちゃんと理解するべきではないでしょうか。

一 学校の「校則」については、どのようにお考えですか

S：誤解を恐れずに言うと、校則は大事ですが、実はそれがすべてではないと思います。所詮、人間が作ったものなんですよ。先日も「学校の授業として、もっと道徳の時間がないといけないよね…」と話していたんですが、「何が本当に正しいことなのか？」ということを理解するのが大切だと思います。

正直に話すと、「髪を染めてはいけない」「ピアスをしてはいけない」というような校則に対して、僕は「クソ食らえ！」という感じでした。高校生の頃はそう思っていたんですが、今は自分が生きている場所には「決まり」や「ルール」があって、「ある程度はそれを守ることが大切なんだ」と考えています。例えば、僕にはタトゥーがあるので、温泉には入れないんですよ。それを「うるせえ！ タトゥーが入っているとか関係ねえから入るぞ！」と、ズケズケと温泉に入ったりはしません。「ここには、そういう決まりがあるからしょうがないね」「郷に入れば郷に従えだね」と、その場所のルールに従うようにしています。

とはいえ、「それは宇宙的に真実か？」というと、そうではないんですよ。そのコミュニティの中でのルールであるだけなんです。そこを理解するべきだと思います。昔は、僕も「何で髪を染めちゃいけないんだよ！」と先生に噛み付いていたんですが、それは学校で決まっているルールですし、「そういう決まりがある所に自分が

求めて入ってきたんだって文句を言うな」「それが気に食わないんだって学校を辞めれば？」ということなんです。

自分が生きている場所には必ず「ルール」があるので、それが社会的な真実や正義ではなかったとしても、僕はモラルとして守るべきだと思います。本当に模範的な生徒になるのが良

いとは思いますが、自分が望んで高校に入学して、その場所にいれば、まずはそのことに感謝すべきです。親が学費を払ってくれているわけですし、日本人であれば学びながらバンドを組んだり、遊んだりすることができるんですよ。

一 確かに、現代はそういった感謝の念が薄れてしまっているかもしれません

S：そう思います。それから、女の子。例えば、イスラムの社会では女の子はずっと学校に行けなかったんです。女の子がちゃんと勉強できて、バンドでも活動できるといふ、素晴らしい状況なんです。日本が100%、良い国とは思いますが、「やっぱり素晴らしい国だな…」と感じる部分は大きいにあります。でも、そういったことが当たり過ぎて、みんな気が付いていないんです。「自由」が当たり前になっているだけに、高校に通っていて、勉強をしていて、友達と遊べて、バンドを組めて…という環境にまずは感謝すべきです。自分の今の居場所に対する感謝の気持ちがあれば、自ずと良い方向に歩めます。

話は変わりますが、食品やメニュー表示の偽装を起こした企業…あそこの人たちには、自分がこの仕事をできることに対する感謝の念がありません。自分たちだけが良い思いをしようとしたわけであって、そこには自分が製造／販売した商品を購入してくれるお客様に対する感謝の気持ちを感じられませんか。残念な事実です。でも、世の中、そんな大人ばかりではありません。「自分の周りにいる良い大人」「カッコ良いと思える大人」「背中を追いたいと思う大人」ともっとコミュニケーションするべきです。

ー 若者の周りには、お酒やタバコをはじめとする様々な誘惑があります。そういったものとどういう距離感を保つべきだとお考えですか

S：僕は高校1年からタバコと酒をやっていたので、人のことは言えないんですけどね…（笑）。今もお酒は止められませんが、タバコは吸っていません。

ー 何がキッカでタバコを止めたんですか。今、高校生が吸おうとしたら何が言えますか

S：タバコは「百害あって一利なしだよ」と言いたいですね。とはいえ、昔はタバコがカッコ良かったんです。例えば、昔のカッコ良いロックスターや映画スターが吸っていましたし、映画にも「カッコ良いアクセサリー」として登場するので、憧れてしまうんですよね。「タバコが吸いたい」「体がタバコをすごく欲している」というような感じではなくて、単純にカッコ良いから吸っていたんです。今は、逆にタバコってカッコ悪いんですよね。それに、ほとんどの子供たちが「タバコはカッコ悪い」ということを知っていると思います。もし今、「タバコはカッコ良い！」と感じる子供たちがいるとするなら、そこには昔の古びたアートワークや概念…「昔ってカッコ良いぜ！」というレトロ主義みたいなものがあると思います。僕は「もっとカッコ良いことやクールなことをやろうぜ！」と言いたいですね。それは、世の中のプラスにもなるんです。タバコはカッコ悪いですし、とにかく体が悪くなりますよ。

お酒に関しては、僕
の概念では「百害」で
はないと思います。あ
る程度のお酒は血行
を良くするし、体にも
良いんです。僕は
ワインが好きなんです
が、葡萄酒は紀元
前の時代から飲ま
れているもので、それ
は「実りの結晶」な
んですよ。日本酒
もそうだと思います。
泥酔は良くないです

が、やはり食事や飲み物というのは文化だと思いますし、
お酒というのはこの先もずっと人と共にあるのではない
でしょうか。タバコとはスタンスが違うと思います。

とはいえ、「お酒もタバコも未成年のうちから手を付け
るべきではない」と今は思いますね。

ー ちょっと話は逸れますが、軽音楽部員の学生に対して
「このミュージシャンやこのアルバムを聴いておくと良
いよ！」というアドバイスはありますか

S：うーん、難しい質問ですね…。LUNA SEAの新しい
アルバム『A WILL』は聴いた方が良いでしょう（笑）。
ロックバンドの魅力が凝縮されています。例えば、「ビ
ートルズやレッド・ツェッペリン、エアロスミスを聴くと
良いよ！」と言ったとしても、恐らく高校生には音が古
く感じると思うんですよね。実際の話、僕が高校生の時
に「絶対に良いから聴いてみる！」ということでツェッ
ペリンの『IV』を体験したんですが、カッコ良いと思う
前に「音が悪い！ なに、このベチャベチャした音？」
と感じてしまったんです。でも、今、聴くとツェッペリ
ンってものすごく音が良いですよ。

最近の高校生がバツと聴いて、「あ、良いな！」と思
える本物のバンド…。日本のバンドであれば、まずは
LUNA SEAを聴きなさい…と（笑）。女性のバンドであ
れば、FLiPやSCANDAL、赤い公演がカッコ良いと思
います。他にも女の子のカッコ良いバンドはたくさんあ
るので、探せばすぐに見つかると思います。また、「高校
生には渋過ぎるかな…」と思う部分もありますが、やは
りビートルズを聴いた方が良いでしょう。僕はビートルズのいわゆる「赤盤（The Beatles /

1962-1966）／青盤（The Beatles / 1967-
1970）」の「青盤」をオススメします。

ー LUNA SEAは地元を中心に活動をスタートし、今で
はスタジアムやアリーナでコンサートを開催するバンド
にまでなりましたよね。そこで、軽音楽部で活動してい
る学生たちに対して、バンドとしてうまくなるためのコ
ツや「LUNA SEAはこういう風に練習してきたよ」と
いうようなアドバイスをいただけないか

S：音楽は「感性」のものなので、本当は今からお話し
することとは逆なんですよ。あえて言いますと、「自分
の演奏力やバンドとしてのレベルが上がる」ということ
は、実はスポーツとまったく同じです。要は、体や筋肉
に覚え込ませるだけなんですよ。スポーツの場合、身体
能力を上げるには何をするか…。それは、ひたすら反復
練習をすることです。これは音楽も同じです。楽器を習
得することに限って言うと、楽器の演奏はスポーツと同
じで、反復練習がとても大切なんですよ。

例えば、同じビートを1時間全員でひたすら反復練習
して、延々と同じことを繰り返すことによって、その先
の「答え」が見えてくるんです。普通は「もういいや…」
という感じで、途中で飽きてしまうと思います。でも、
高校生の頃、僕とドラムの真矢はとにかく反復練習を繰
り返していました。また、これは高校生には難しいかも
しれませんが、ジャムすることも大切です。要するに、楽

バンドは「絆」であり、「家族」な んだ。メンバーは「かけがえのない 存在」と言えるんじゃないかな

器で会話をすることですね。自分の楽器が自分の「声」
だと知ることが重要で、ギターならギター、ベースなら
ベース、ドラムなら鍵盤なら…という感じで、バンドメ
ンバーと普通に会話をしているような感じで、楽器を使
って自由に演奏という「会話」ができるようになること。
これが重要です。

それから、「仲間」というのはすごく大切な存在です。
やはり大人が操作したプロジェクトみたいなものはあん
まり面白くないんですよ。LUNA SEAのメンバーは
中学、高校時代の友人たちです。ビートルズも「仲間」
から始まったバンドですよ。バンドは「絆」であり、「家
族」なんです。まわりの人間によって作られるものでは
ありません。ですので、「軽音楽部の仲間と一緒にバンド
をやっているメンバー」というのは、かけがえのない存在
なんだ」ということを知るべきです。「このメンバーじゃ
ダメだから、オーディションでもっとすごい奴を集めよ
うぜ！」というのも良いのですが…恐らく、バンドの本
質ではないと思うんです。楽器の演奏がうまくないと上
のレベルには行けませんが、大切なことはもっと別のと
ころにあって、演奏の上手／下手ではないんですよ。

ー なるほど…。では、バンドとしてのレベルを上げる意
味でも、楽器を自分の声にするためにはどうすれば良い
のでしょうか

S：まずは楽器を自分の体の一部にすることですね。僕
が高校生の頃はギターを抱いて寝ていました。練習しな
がら寝てしまう…という毎日だったので、常にギターと
共にベッドに入っていたような感じだったんです（笑）。
あまり大きな声では言えませんが、授業中もずっと弾い

ていて…。先生の話の間かずにギターを弾いていました。
高校3年の時に僕は4組で、真矢は5組だったんですが、
授業中、ずっと横の教室から「タンタカ、タンタカ、タ
ンタカ…」と机をスティックで叩いている音が聴こえて
いるんですよ。彼は授業中、ずっとスティックで机を叩
き続け、何人の先生がノイローゼで辞めてしまったかと
いう…（笑）。マネをすることは推奨できませんが、高校
時代の真矢はドラムの虫で、僕はギターの虫でした。

先ほど、「みんなは何でもできるし、何にでもなれる」
と言いましたが、ポイントは「やるべきことにフォーカ
スすること」です。「俺はギターを弾きたい。でも、バス
ケットボールもやりたいし、料理人にもなりたい…」と
いう感じで、やりたいことのすべてで一流になるのは難
しいですよ。そこで大切なのは、まず極めたいと思う
1つのことにフォーカスして、高校生活の3年間という
時間を使うべきだと思います。

ー 自分がいる環境に対して感謝するのは、なかなか難し
いことかもしれませんね

S：そうかもしれません。でも、「自分が良いところにい
る」ということがわかっている人は、恐らく、他の人よ
りも上に行っていると思います。「今、自分にとってすご
く大事なタイミングだ！」とか「今、学ばなきゃ！」と
いった感覚ですね。僕はそこまでわかってはいません
でしたが、少なくとも高校時代には「とりあえず、今はギ
ターの習得だけにフ
ォーカスしよう」と
決めていました。そ
れ以外のことは求め
なかったんです。最
終的にやりたかった
ことは総合的に音楽
を生み出すことだっ
たんですが、高校2
年～3年くらいの
間はとにかくギター
の腕を磨くことにし
か時間を使っていま
せんでした。

ー 最後に、本誌の読者である高校生にエールをお願いし
ます

S：何度も言いますが、みんなは「こうなりたい！」と
いう強烈な想いがあれば何でもできるし、何にでもなれ
ます。今、持っている夢をすべて叶えられると思います。
それを知って欲しいですね。でも、その夢のために誰も
生きてはくれない。自分で動き、自分で決断し、方法を
編み出すしかありません。この「方法を編み出す」とい
うのは、知っている人に聞くことでも良いんです。大切
なことは自分で目標を定めて、学び続けることです。
「あー、勉強、面倒くせえ～」と思うかもしれませんが、「学
ぶ」ということは生きる喜びにもつながりますし、それ
は人生における最も重要なことだと思います。



SUGIZO Remix Album [VESICA PISCES]
WKYCD0041 ¥2,500 (税込)



— 「A WILL」はスタジオ作品としては通算8作目、13年5ヶ月ぶりのリリースとなります。LUNA SEAが終幕（無期活動休止）してから13年という長い年月が経っていたわけですが、アルバム制作に至った経緯を教えてください。どんなところから「徐々にアルバムを作ろう！」という話を持ち上がったのですか

SUGIZO (以下、S): 実は「よし、アルバムを作ろう！」的な感覚で今回のアルバム制作が始まったわけではないんです。2010年…つまり、LUNA SEAの「REBOOT (再起動)」の頃あたりから、「今のLUNA SEAで新しい音を作ってみようぜ」と自然発生的に新曲の制作が始まったんですよね。その段階では10年以上前の古い楽曲しかなかったわけで、「40代になった今の僕らのレベルで、本気で音を作ったらどうなるか？」というところから始めて…レコーディングして、アルバムにまとめて、発売して…という計画はとりあえず置いておいて、思い立つまま、とにかく自然な感覚で曲を書き始めたんです。

— 「アルバムとしてリリースしよう！」という話を持ち上がったのは、メンバーさんがキッカケなんですか。それとも、マネジメントですか

S: これはマネジメントですね(笑)。「そろそろリリースしないと、契約的にも…」という感じだったんです。「じゃあ、形にするか！」みたいなところから始まったんですが、かえってそれはそれで良かったと感じています。

多くの場合、プロのミュージシャンになつてしまうと、「アルバムを発売する」という予定を計画した上で楽曲を作ります。それは当然の流れと言えるんですが、結成したばかりのバンドというのは、そうではないですよね。その頃はバンドの「存在証明」のために楽曲を生んでいくので、それを発売する／しないとか、レコーディングする／しないというのは、その後の話です。まずは「音楽」が生まれてくるんです。そういった感覚で今回の楽曲が生まれているので、何だかLUNA SEAの2枚目のファースト・アルバムを作ったような感覚があります。僕も含めて基本的にはメンバーそれぞれの活動があって、うまくスケジュールのタイミングが合った時間にギャップとLUNA SEAのセッションをして、また散らばって…という感じでした。ですので、実際のアルバムの制作期間としては延べ3ヶ月くらいだと思います。

— 2000年にLUNA SEAの活動が「終幕」してから、SUGIZOさん自身はどのような活動をしていたんですか

S: ソロ・アーティストとしての音楽活動を中心に、映画音楽やコンテンツ・ダンスの音楽監督を担当したり、芝居をしたり、The FLAREという期間限定のユニットを組んだりしていました。あとはJUNO REACTORに参加したことも大きいですね。とにかく多方面で活動しており、まるで音楽と人生を探究する旅をしていたような日々でした。

— 今回のレコーディングにあたり、メインで使用したギターやアンプを教えてください

S: いつも使っている、フェンダーのビンテージのストラトキャスターとナビゲーターのストラト・タイプが中心ですね。61年製「菊丸」と57年製「黒丸」、それから69年製「アポロン」という3本に、ナビゲーターのP-90が搭載されているストラト・タイプが2本。あとは64年製のジャガーとレス・ポール・カスタム。レス・ポールはアルニコVとP-90のピックアップが載った、57年製の1本だけです。

アンプは基本的にはEVHとDivided By 13、そして、BognerやRoccaforteも使いました。大体、アンプは僕のものも使いますが、いつもレコーディングではサウンド・テクニシャン所有のものがスタジオに多数積んであり、その中からチョイスして使います。「どの音にどのアンプを使ったのか？」については、テクニシャンが記録しており、僕自身は正確には覚えていません。

— アンプを複数使って、ミックスすることはありますか

S: はい。でも、どちらかというと、ミックスはするんですが、アンプは同じままの方が多くです。これはいつもやっている方法なんですが、メインの歪みをレコーディングしたらそのアンプに送るレベルを下げる、もしくはアンプのゲインを下げて歪みを落として、リアンプでクランチ・サウンドをレコーディングしています。最近ではそれらをミックスすることが多いですね。

— レコーディングで新規に導入した機材はありますか

S: 大きなものはありませんが、アルバム単位でいうと、EVHとDivided By 13のアンプを使うのは初めてのことで。また、レコーディングにはPro Tools Xを使用しました。細かいエフェクターについてはどんどん新しくしていくので、挙げたらキリがない、もしくはあまり覚えていないんですが、最近はStrymonのエフェクターがすごく好きです。

それから、結果的に今回のアルバムでは使わなかったんですが、ギリギリまで使うつもりで試していて、今後のメイン・ギアになっていくと考えているのが、ローランドのGR-300です。ギター・シンセのサウンドが大好きなんですよね。また、ソロ活動でいわゆるダンス・ミュージックをメインでやる時には、アンプを鳴らさずにFractal Audio SystemsのAxe-Fx IIだけで臨むことが多いですね。

— ニュー・アルバムはどのような作品ですか

S: まず今回のアルバムでとても重要なのが、「THE ONE -crash to create-」という12年ぶりのシングルなんです。これは22分越えの大曲なんですが、そこでLUNA SEAの「宇宙的構築美」を余すことなく表現できたと思自負していて、それがあった上で今回の「A WILL」というアルバムが存在しています。つまり、「対」

になっている感覚ですね。そのシングルでLUNA SEAの深淵なる世界観をとことんまで表現することができたので、はち切れんばかりの勢いのあるエネルギーがこのアルバムに集約されているんだと感じています。ですので、今作ではLUNA SEAの深淵で、宇宙的なダイナミズムにはあえてフォーカスせずに、どちらかというと光に満ちたものを中心としています。

「THE ONE -crash to create-」は「徐々に出すシングルだし、何か面白いことをやろう！」ということで、それぞれのメンバーが楽曲を持ち寄って、それらをつなぎ合わせ、また各原曲を解体／再構築して、組曲的に仕上げました。この楽曲で現段階の深淵なLUNA SEAを表現することができたので、やっとその次の一步を踏み出せたといえますか…。「THE ONE -crash to create-」があつてこそこのニュー・アルバムなので、これがないとアルバムを語ることはできません。



SUGIZO <http://www.sugizo.com/>

1969年7月8日生まれ。神奈川県出身。1992年5月、LUNA SEAのコンポーザー、ギタリスト、ヴァイオリニストとしてデビュー。幼少期よりヴァイオリンや楽典など、クラシック音楽の英才教育を受けて育ち、綿密に構築された唯一無二の作曲能力や、瞬間を切り取り、光に昇華させるかのようなギター&ヴァイオリン・パフォーマンスは極めて評価が高く、シーンを創出し、ジャンルの境界を壊しながら縦横無尽にアートを舞う、その美意識は国内外にて圧倒的な存在感を誇る。現在、SUGIZOとしてのソロワークのほか、LUNA SEA、X JAPAN、UKのトランス・ユニットJUNO REACTORなど、多岐に渡って世界規模で活動中。



**LUNA SEA、待望の
ニュー・アルバム完成！
『A WILL』**

初回限定盤 A (SHM-CD+DVD) UPCH-9905 ¥5,980 (税込)
初回限定盤 B (CD+DVD) UPCH-9906 ¥3,980 (税込)
通常盤 (CDのみ) UPCH-1953 ¥3,059 (税込)

「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」と軽音楽部の接点

平成 30 年 12 月に文化庁によって策定された「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」は同年 3 月にスポーツ庁より策定された「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」に準じています。これらは近年、部活動に関しての様々な問題に対して検討されたもので、本来、部活動は教育の一環であり、社会人としてのスキルを学ぶためのものだという考え方が根底にあります。軽音楽部には、文化庁のガイドラインとの接点を多く見るすることができます。その接点のいくつかを一覧にしてみました。

特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会 副理事長 辻 伸介

文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

1 適切な運営のための体制整備

(2) 指導・運営に係る体制の構築（抜粋）

イ 学校の設置者は、各学校の生徒や教師の数、部活動指導員の配置状況や校務分担の実態等を踏まえ、部活動指導員を積極的に任用し、学校に配置する。（中略）服務（校長の監督を受けることや生徒、保護者等の信頼を損ねるような行為の禁止等）を遵守すること等に関し、任用前及び任用後の定期において研修を行う。

ウ 校長は、文化部顧問の決定に当たっては、校務全体の効率的・効果的な実施に鑑み、教師の他の校務分掌や、部活動指導員の配置状況を勘案した上で行うなど、適切な校務分掌となるよう留意するとともに、学校全体としての適切な指導、運営及び管理に係る体制の構築を図る。

カ 都道府県、学校の設置者及び校長は、教師の文化部活動への関与について、「学校における働き方改革に関する緊急対策（平成 29 年 12 月 26 日文科科学大臣決定）」及び「学校における働き方改革に関する緊急対策の策定並びに学校における業務改善及び勤務時間管理等に係る取組の徹底について（平成 30 年 2 月 9 日付け 29 文科初第 1437 号）」を踏まえ、法令に則り、業務改善及び勤務時間管理等を行う。

教師の負担軽減と外部人材の参画

軽音楽部では、他の部活動のように「レギュラーと補欠」という図式ではなく、全員がそれぞれバンドというグループに所属して活動します。もちろん、各パートごとに別れて基礎練習などを行うこともありますが、先輩バンドが後輩バンドにアドバイスをする、異学年と一緒にバンドを組むなど、軽音楽部ならではの先輩後輩の良好な関係が生まれやすく、自然と異学年の交流が盛んになります。

また、基本的に生徒の自主性・主体性が不可欠な軽音楽部においては、今後、部活動指導員をはじめ外部人材の積極的な参画が進めば、さらに教師の負担軽減につながります。顧問の指導に頼りすぎず、生徒だけでも持続可能な運営体制が確立されます。

文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

2 合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取組

(1) 適切な指導の実施（抜粋）

イ 文化部活動の指導者は、（中略）過度の練習が生徒の心身に負担を与え、文化部活動以外の様々な活動に参加する機会を奪うこと等を正しく理解するとともに、生徒の芸術文化等の能力向上や、生涯を通じて芸術文化等に親しむ基礎を培うことができるよう、生徒とコミュニケーションを十分に図り、生徒がバーンアウトすることなく、技能等の向上や大会等での好成績などそれぞれの目標を達成できるよう、分野の特性等を踏まえた合理的でかつ効率的・効果的なトレーニングの積極的な導入等により、休養を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導を行う。（後略）

4 生徒のニーズを踏まえた環境の整備

(1) 生徒のニーズを踏まえた文化部の設置（抜粋）

ア 校長は、学校や地域の実態に応じて、現在の文化部活動が、性別や障害の有無を問わず、生徒の多様な潜在的なニーズに必ずしも応えられていないことを踏まえ、技能等の向上や大会等での好成績以外にも、友達と楽しめる、適度な頻度で行える等、生徒が参加しやすいような多様なレベルや生徒の多様なニーズに応じた活動を行うことができる文化部を設置する。（後略）

合理的、かつ効率的・効果的な活動と生徒のニーズ

軽音楽部はバンドごとに活動するため、楽器の演奏技術向上や合奏することに重きをおきたい、ライブを行うことや大会に出場することを目標にしたい、オリジナル楽曲作成やレコーディングを行って音源制作に力を入れたい…といった、多様なニーズに応えることができます。やり方によっては、期間を設けて様々なことにチャレンジしたり、各々が自由に活動を広げることができ、部活動への過度な傾注やバーンアウトすることなく、軽音楽という文化芸術活動を続ける基礎を育みます。

また、軽音楽部に性別や障害による差別はなく、メンバー間に活動への温度差が生じたりした場合でも、チーム分けを変更すれば、部活動を継続させることも可能です。

文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

4 生徒のニーズを踏まえた環境の整備（抜粋）

(1) 生徒のニーズを踏まえた文化部の設置

イ（前略）単一の学校では特定の分野の文化部活動を設けることができない場合には、生徒の部活動参加の機会が損なわれることがないよう、複数校の生徒が拠点校の部活動に参加する等、合同部活動等の取組を推進する。また、持続可能な活動を確保するため、長期的には従来の学校単位での活動から一定規模の地域単位での活動も視野に入れた体制の構築が求められる。（後略）

4 生徒のニーズを踏まえた環境の整備（抜粋）

(2) 地域との連携等

ア 都道府県、学校の設置者及び校長は、家庭の経済状況にかかわらず、生徒が芸術文化等の活動に親しむ機会を充実する観点から、（中略）地域の人々の協力や体育館や公民館、美術館・博物館などの社会教育施設、劇場、音楽堂等の文化施設の活用や芸術文化関係団体・社会教育関係団体等の各種団体との連携、保護者の理解と協力、民間事業者の活用等による、学校と地域が共に子供を育てるという視点に立った、学校と地域が協働・融合した形での地域における持続可能な芸術文化等の活動のための環境整備を進める。

合同部活動などの取り組みの推進

軽音楽部は活動の単位がバンドという小さなグループであるため、他の部活動よりも地域での合同部活動の展開も可能です。バンド同士の交流はもちろん、互いにメンバーを入れ替えてのセッションなども比較的容易です。それは、コンダクターの指示や譜面どおりに演奏を再現することが目的ではなく、生徒自らがコード・ネームを使用したり、創作力を持って演奏することが多い軽音楽部だからできることです。他パートへアイデアを出し合ったり、合奏の構築を普段から自主的に行っているからこそ可能なことだと言えます。

また、同じ理由から、地域のお祭りや老人ホームへの慰問、公共施設での演奏会など、地域との連携が比較的容易です。機材のセッティングや片付けは大変ですが、ほとんどを電子楽器で行う軽音楽部では、場所や状況に応じた音量で演奏することが可能です。電子ドラムを使用してほぼ無音でライブを行ったり、アコースティック・ギターやカホンを使用して楽曲をイベント用にアレンジすることもできます。自らの演奏を不特定多数の観客に聴いてもらえるように努力することは、音楽を通した文化芸術活動として、とても意義のあることです。

文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

本ガイドラインは、生徒の視点に立った、学校の文化部活動改革に向けた具体的な取組について示すものである。中学生及び高校生の時期は、生徒自身の興味・関心に応じて、教育課程外の学校教育活動や地域の教育活動など、生徒による自主的・自発的な活動が多様化していく段階にある。少子化や核家族化が進む中において、学校外の様々な活動に参加することは、実生活や実社会の生きた文脈の中で様々な価値や自己の生き方について考えることができる貴重な経験となり、幅広い視野に立って自らのキャリア形成を考える機会となることも期待される。また、生徒が多様な学びや経験をする場や自らの興味・関心を深く追究する機会などの充実につながるものである。

文化庁ホームページから検索できます。
<https://www.bunka.go.jp/index.html>

文化部活動ガイドライン

検索



文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

平成30年12月



軽音楽部の大会における統一審査基準（案）

愛知県高等学校軽音楽大会、高等学校軽音楽コンテスト中部大会において実施中

1. 審査の方向と基本的な考え方について

- 軽音楽部の大会は部活動の延長線上にあるため、部活動として「本番までにメンバー全員で何を積み上げてきたか」「全員で良いステージを作れたか」を主な審査の対象とする。
- 個々のテクニックや才能よりもアンサンブルを重視し、全員で同じ目標に向かっていったかという「チームワーク」や「チームプレー」を審査する。
- 将来性、個別のアクシデントや諸事情などは考慮せず、当日のステージの完成度のみで審査する。個人の楽器トラブルなども場合によっては審査の対象とする。
- 軽音楽部はバンド演奏を通じて「コミュニケーション」を学ぶ場でもあるので、バンド形態での出場を原則とする。

2. 楽曲のカテゴリーについて

- 演奏する楽曲がオリジナル楽曲なのかコピー楽曲なのかは問わない。ただし、「クリエイティビティー」が特徴である軽音楽部の大会においては、オリジナル楽曲である方が望ましい。
- コピー楽曲の場合、審査員がその楽曲を既知かどうかで評価が変わる可能性があるため、原曲との違いで評価しない。
- カバー楽曲の場合、あくまでも「アレンジ」と捉えてオリジナル楽曲とは認めない。ただし、アレンジに対するオリジナリティーやクリエイティビティーは審査の対象とする。
- オリジナル楽曲の場合、審査員の好みによって評価が変わる可能性があるため、楽曲の良し悪しで評価しない。
※ケースによっては、楽曲の音楽性や良し悪しを通常審査とは別枠で「楽曲賞」を設けることで評価することもある。

3. 審査項目について①

合奏力

その楽曲を「演奏」するために必要なことを、メンバー全員でどれだけ突き詰めて練習してきたか。また、披露できていたかを審査する。単純に個々の技術の評価するわけではない。

①テクニック

メンバー全員がその楽曲を演奏するための技術をどれだけ習得していたか。

- 個人のハイレベルなテクニックは合奏にそぐわなければ評価しない。ただし、何もしないことが良いわけではない。
- コピー楽曲の場合、原曲に忠実かどうかよりも「良い合奏」を目指していたかを評価する。
- オリジナル楽曲の場合、個々のフレーズのアイデアやセンス、オリジナリティーなどはここでは評価しない。そのフレーズを表現するための演奏技術のみで評価する。
※部活動は単に技術の向上が目的ではなく、「技術は合奏のため」という意識を育てる。
※選曲やレベルに合ったアレンジなどをメンバーで協力して考える意識を育てる。

②リズム理解

メンバー全員がその楽曲を演奏するためのリズム（テンポ、グルーブなどを含む）をどれだけ理解していたか。また共有、及び披露できていたか。

- 全員がリズムの共有をしていたかを評価する。
- 楽曲に合ったテンポで演奏し、全員でテンポ・キープができていたかを評価する。
- 原曲に忠実かどうかよりも「良い合奏」を目指していたかを評価する。
※各々がテンポ・キープ、リズム・キープをする意識を育てる。
※音楽にはリズムが伴っていないといけないという意識を育てる。
※ポピュラー・ミュージックにとって大事な「グルーブ」への意識を育てる。

③セオリー

- メンバー全員がその楽曲を演奏するための音楽的知識をどれだけ習得していたか。また共有、及び演奏できていたか。
- 個々のフレージングにおいて、キー、構成、和音、コード進行などが理解できていたか。
- コピー楽曲の場合、原曲に忠実かどうかよりもハーモニーとして成立していたかどうかを評価する。原曲が音楽理論上、あるいは聴感上、音の重ね方などがおかしい場合であっても考慮しない。
- オリジナル楽曲の場合、コード・アレンジのアイデアやセンス、個々のフレージングなどのオリジナリティーはここでは評価しない。メンバー全員の和音への理解を評価する。
※各パートのフレーズが絡み合って音楽ができているという意識を育てる。
※キー、スケール、コード、コード進行などの必要最低限な音楽的知識の必要性を育てる。

3. 審査項目について②

表現力

その楽曲を「表現」するために必要なことを、メンバー全員でどれだけ突き詰めて練習してきたか。また、披露できていたかを審査する。

①イメージ共有

メンバー全員がその楽曲の歌詞や世界観、感情、ダイナミクスをどれだけ理解し、また共有して、どれだけ独自性を出しながら演奏できていたか。また表情やステージングなどで演出し、表現できていたか。

●例え、音楽理論上は奇抜なフレーズであっても、楽曲の表現として成り立っていれば評価する。

●個性に関するオリジナリティーはオリジナル楽曲の場合もコピー楽曲の場合も、歌唱や演奏が音楽的かどうかを重視し、評価する。

●派手に動きまわることや動かないステージングなどは楽曲にそぐわなければ評価しない。楽曲のイメージに合ったステージングやパフォーマンスができていたかを評価する。

●客席に音楽や楽曲に含まれるメッセージなどを伝えようとしていたかを評価する。

●きちんと演出されていたかどうかではなく、メンバー全員が1つになってドラマを作ろうとしていたかを評価する。

※自己満足で終わらず、全員で人に何かを伝える演奏を目指す意識を育てる。

※人前で演奏するという事は楽曲を聴いてもらうためだけでなく、ステージを見てもらうことでもあるという意識を育てる。

②バランス

ステージ上でメンバー同士が連携を取りながら演奏できていたか。各パートの音量や音色、音の定位、音域などのバランスが取れていたか。

●演奏中、お互いを意識して「合わせよう」としていたか。アイコンタクト、ミスやトラブルのフォローなども評価の対象とする。

●テーマ・メロディーやソロなどの音量や音色は適切で、押し引きができていたか。

●それぞれがその楽曲の合奏に合う音作りができていて、歌を含むすべてのパートがきちんと聴こえていたか。

●チューニングが合っていたか。

※自分が全体の中の1人であり、アンサンブルの中でどう演奏すれば良いかという意識を育てる。

※音楽は「音」として全員で奏でるものであるという意識を育てる。

※楽器を「楽器」として扱い、本番に向けたメンテナンスや調整の必要性を理解させる。

4. 審査方法と賞について(例)

●審査員3名(1名は審査員長)が上記の考え方にに基づき、総合的な審査を点数によって行い賞を決定する。同点だった場合は審査員、及びコメンテーターによって協議され、最終的に審査員長が判断する。

●審査員は各バンド演奏終了後に講評し、アドバイスシートに全体的なアドバイスを記入する。コメンテーターは審査には関わらず、パートごとのアドバイスをシートに記入する。

●審査の点数は開示し、アドバイスシートは各校へ渡すことによって今後への意欲につなげる。

●出場するバンド数が多く、演奏楽曲にオリジナル楽曲とコピー楽曲が混在する場合の部門分けやオリジナル楽曲の優秀性を審査しての「楽曲賞」の授与、各パートごとの「個人賞」の授与など、ケースによってのアレンジは可能とする。

①各賞の例

グランプリ	1 バンド
準グランプリ	1 バンド
第3位	1 バンド
奨励賞	3 バンド
楽曲賞(オリジナル楽曲のみ)	1 バンド
個人賞	各 1 名
ベスト・ボーカリスト	
ベスト・ギタリスト	
ベスト・ベーシスト	
ベスト・ドラマー	
ベスト・キーボーディスト	

ベスト・プレイヤー

(上記以外の楽器演奏などで優秀な生徒がいた場合)

②楽曲賞

オリジナル楽曲において、歌詞、メロディー、コード進行、バンドアレンジ、パートアレンジなどを含め、総合的に優れていたグループに贈られる賞。

●作者個人ではなく、グループに贈るものとする。

●個人、及びバンドの演奏力や表現力は審査の対象に含まない。

③個人賞

個人のテクニックや音楽的センスが優れていた生徒へ贈る賞。

●アンサンブルを無視した身勝手な演奏などは対象外とする。

●オリジナル楽曲やカバー楽曲の場合、個性やオリジナリティーも評価の対象とする。ただし、音楽的でない場合は評価の対象としない。

④その他、演奏中止、審査対象外、失格になる場合もある。

●危険行為を行った場合。

●あきらかに演者の行動が起因となる遅延があった場合。

●誹謗中傷や暴言など、部活動にそぐわないMCや発言があった場合。

●その他、大会規定のルールを守らなかった場合。

軽音楽部の困っているに応えます。



個人の楽器や部室の機材、技術指導など
お困りの際は、軽音協までお気軽にご相談ください。

まずはお電話を… TEL : 045-913-0901 E-mail : info@keionkyo.org

騒音問題はサイレント・システムが解決

バンド練習も個人練習も、外に音を出さない。新しい時代の軽音楽部の練習環境と機材。

軽音楽部のオール電化計画



紹介映像



デジタル・ミキサー
ZOOM / L-12



電子ドラム
Roland / TD-1DMK



本当に出音は小さいのか？ 操作は難しくないのか？ 実際に試したい方は軽音協までお電話ください。

